

V 研究開発の実際と成果 2 小・中接続期カリキュラムの開発

1. 小・中接続期カリキュラムについて（研究の概要）

(1) 小・中接続期カリキュラム研究の目的

本研究で開発する「小・中接続期カリキュラム」は、「連携型一貫カリキュラム」として構想しようとしている。小・中学校は、いわゆる一貫校として一つの学校になるのではなく、それぞれが独立した学校と独自性をもって教育を展開する。このような場合には、どのように教育課程上の一貫性や連続性を作っていけば、子どものよりよい成長や発達を支援していけるかを研究しているのである。

背景には、小・中学校の教員の指導法や指導観の違いがあり、小学校高学年から中学生にかけて、

○学習が難しくなることによる意欲が低下すること、

○子どもが教員との関係を上手く作れずに、自己肯定感・自己有用感が低下する、

などの問題が、本附属小・中学校移行期にも起きていることが背景としてあげられる。

ただし、本附属中学校で、不適応、不登校者がほとんどいないのは、小学校高学年からは、分野（教科）担任制を敷いていることと関連があると判断している。そこで、この研究の目的は、

ア 小・中移行期間における分野教科カリキュラムを明らかにすること

イ 小・中移行期間における生活面・自治的な面での配慮事項を明らかにすること（教員の子どもへの関わり方、子どもと子どもの関わり方、それらを取り巻く環境のあり方など）

とした。

(2) 小・中接続期カリキュラム研究の方法

ア 小・中移行期間における分野教科カリキュラムについて

(ア) お互いの授業を見合うことから

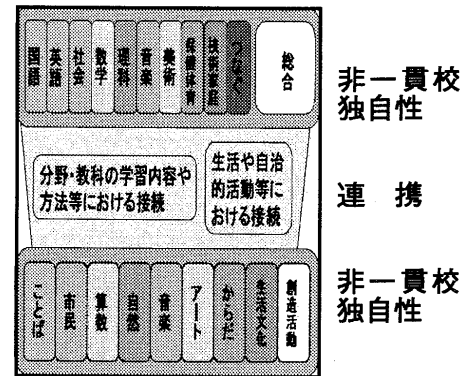
このような小・中学校の教員の指導法や指導観の違いによって、子どもの学びや生活につまずきとしてのギャップが生まれてしまえば、子どもは、小・中学校の教員の犠牲になっていると言っても過言でない。そこで、附属小学校・中学校では、お互いに学校の授業を見あうことを通して、お互いの違いをより知り、その違いに対して修正の要望を出しあい、できればその違いを認めあって、埋められるならば埋めていくことが必要だと感じた。

今年度は、中学校では、4～5月に、1年生の授業を6回公開し、小学校では、11～12月に6年生の授業を4回公開して、お互いに見合うことを通して、研究を進めてきた。

(イ) お互いの学校の授業の仕方に意見を出し合う

例えば、市民・社会科部会では、小学校の教員からは、次のような要望を中学校におこなってきた。

附属中学校では、附属小学校から70%の子どもを受け入れ、他の公立小学校から約30%の子どものを受けて入れている。附属小の子は話し合いが好きなのに対して、他校からの子は知識豊富である。両者ともにそれぞれの特徴があるのに、中学校入学を機会に全てをリセットして、同じスタートラインに立てたがってるのではないだろうか。むしろ、そういった生活、学びの履歴を背負った様々な子どもたちの経験を交流させ、生かしていくことの方が前向きな研究になるのではないか。



数年前には、中学校の教員は、「時間が不足していて、話し合い形式の授業はできない」と言っていた。しかし、今回の連携研究では、中学校も話し合いの授業にチャレンジした点は、大きな前進で、少しずつ、指導法や指導観を埋めようとする試みは、進み始めた。

次に、中学校から小学校に対して出された要望（2007年1月時点）を紹介する。

○中学校の社会科に対する不安のおもなことは、暗記が多いこと、とあげられていた。短時間で多量の知識を身につけることへのとまどいがあると感じられる。小学校でも、例えば、県名や人物名を漢字で覚える学習に取り組み、学習のしかたに慣れておけば、それを生かし、不安も軽減できる。楽しみながら知識を吸収する力は、小学生の方が優れていると感じられる。

○根拠をもって自分の意見を述べることは得意だが、もととなる資料を活用する力に非常に個人差があり、中学での学習ののびに大きく関わる。統計資料の使い方（例えば割合を計算できる）や、文章を読む（漢字、要点をつかむ）学習を、より取り入れてほしい。

中学校が小学校と同じような形態の授業にチャレンジすることとで一步前進したものの、お互いへの要望の内容を読んでみると、依然としてそこには隔りがある。今年度は、この研究はスタートラインにたったばかりと言えるだろう。

イ 小・中移行期間における生活面・自治的な面について

(ア) 中学校入学後の教員－子どもとの関わり方－

中学校に入学してから、子どもたちは中学校生活に慣れることに重点を置いて生活している。このため、先生も子どもたちといっしょにいる時間を増やすために、授業開始前に教室に行ったり、授業や学活の後すぐに職員室に戻らないで教室にしばらくいたりしている。子どもたちといっしょにすることで、子どもたちの様子を把握したり、子どもたちからの質問や相談に答えたりすることができるからである。中学校の教員は、このような普段の何気ない取り組みを大切に、子どもとの関わり方に注意を払っているのである。

(イ) 小学校の協力学年担任制

附属小学校では、4年生からは「協力学年担任制」に「分野担任制」を併用している。中学校の教科担任方式と制度がほぼ同じなので、一般的に言われるような中学校入学後に、教員との関係が上手いかずに不適應を起こしたりする子どもは、ほとんどいない。この点において、附属小学校－中学校間の連携を図っている。都内他区の中学1年生の実態と比較しても、本附属中学校ではほとんど「不登校がない」ということの原因になると考える。

また、分野担任制は、子どもの側からは、専門的な授業を受けることができる利点がある。人間性を育むには、充実した教科指導による「知的好奇心の高揚」や「教養」といった側面が大切であり、切り離して考えることはできないし、このことが中学校の教科担任制による専門的な学習につながるという立場からも、小学校は分野担任制を採用しているのである。

2. 開発したカリキュラムとその効果

(1) 子どもの実態を把握することからの出発

最初に、「子どもの感じる不安や問題点」をとらえて、中学校側で、中学校1年生の教科学習のあり方への配慮事項や、生活への配慮事項を考えた。平成17年度の6年生（現中1）を対象にしたアンケート結果では、中学校での学習に不安を抱えている教科は、数学が相変わらずトップである。

表 平成17年度の6年生（現在中1）が中学校の教科学習に対して感じた不安

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保・体	技・家	英語
とても不安だ	9.4%	16.4%	39.1%	10.2%	6.3%	12.5%	11.7%	7.8%	20.5%
少し不安だ	39.8%	46.9%	30.5%	53.9%	34.4%	45.3%	46.1%	56.3%	38.6%
不安はほとんどない	50.8%	36.7%	30.5%	35.9%	59.4%	42.2%	42.2%	35.9%	40.9%

記述式の回答で、「不安な理由」を見ると、最も多かったのは、「数学になるとより難しくなるのではないか」ということで、小学校の算数時代から苦手だったと回答した子には、特にこの傾向が強く出ている。そこで、中学校の数学科教員は、初めての数学の授業を以下のようにおこなった。

中学校に入学して、最初の授業では、教科名が変わったことによる子どもたちが抱く壁を取り除くとともに、自分の考えを友達に発表したり、友達の発表を聞いて自分の考えをさらにふくらませることができたり、みんなの考えをまとめたりすることにねらいを当てておこなった。今回は小学校からの「なめらかな接続」に重きをおいて実践してみた。

「4けたの数を5つたす」を題材にして、4けたの数を子どもから3つ（4321,1234,5671）、教員から2つ（5678,8765）出し、それら5つの数の合計を教員がすばやく求めていく。すばやく求めていくことができるのはどうしてか、またその仕組みはどうなっているかを考える活動である。

子どもたちは4人のグループになり、考えを出し合っていた。気がついたことをどんどん出し合っていくと、「9999」になることに気がついたグループが徐々に広がってくる。そこから5つの数の合計にどうつながっていくかがそれぞれのグループで考え方が様々である。「9999」が2組できるので「19998」で考えるグループが多く、中には「19998」を「20000-2」と考えるグループもあった。活動の中で自分の考えを友達に説明する姿やそれらをノートにまとめる姿が多く見られた。各グループでまとめたところで授業が終了となった。

4 3 2 1
1 2 3 4
5 6 7 8
8 7 6 5
+) 5 6 7 1
2 5 6 6 9

2時間目の授業では、各グループから話し合った内容や気がついたことまとめたことなどを発表し、まとめていった。

仕組みは、5つの数のうちたして「9999」になるものが2組でき、残りの数がポイントとなる。この残りの数から「2」を引いて、一万の位に「2」をつければ5つの数の合計になる。なぜ2つの数をたして「9999」にするかは、たして「10000」と比べて気がつきにくく、各位の数がたして「9」になればよく、子どもが出した数と組み合わせる数が出しやすくなる利点もある。

また、普段の指導でも、この数学の教員は様々に以下のような手だてを打っている。

子どもたちは、「これからわからなくなっていくそう」と、この先学習していくことへの不安を抱く子どもも少なくない。それは、子どもたちが自信をもつ場をつくることで、不安の解消はできなくても軽減は可能である。中学校では、なだらかな接続を意識し、常に小学校で学習したことを子どもたちに確認し、中学の内容に結びつけて指導してきた。また、学習中の机間巡視の際、自信のない子どもに「しっかり解けているよ」と一声かけることにより、その子どもが自信をもって黒板で解いたり、発言したりしている。数学の目標のたたせ方も、「必ず達成できる目標」と「最高の目標」を立てさせて、その2つの目標の間に到達できたと自分への評価を高めるようにしている。

(2) 「なめらかな接続」と「適切な段差」の考え方で、接続期を創設する

このような子どもたちが感じる教科への不安から、教員の対応を見つめ直したとき、小学校から中が校への移行期に重点的に配慮してしながら指導することがあるだろうと考えた。また、小学校卒業から中学校入学という人生の節目にあたるこの大切な時期に、子どもの様々な問題が起こりやすいこともふまえて、「小・中接続期」を設定することにした。本附属小・中学校は、「小・中接続期」について、以下のように定義して、実践を工夫するようにしたのである。

【小・中接続期とは】

小・中の教員が、卒業や入学など、人や環境の大きな変化で生じる子どもの不安、とまどい、緊張、葛藤などを、それぞれの子どもの状況に応じて受けとめる。それをもとに、中学校入学の喜びをバネにしたり、小学校での既有経験を生かして解決の見通しをもったりして、安心して中学校での新しい課題にして取り組み、主体的に学習や生活に向かいあう姿勢を育む時期である。

この小・中接続期では、「なめらかな接続」と「適切な段差」の考え方で接続させることがポイントになると判断した。

「なめらかな接続」とは、子どもたちが、新しい環境においても、小学校で培った力や方法などを活かしてやっていけるという見通しや実感をもてること。そこから来る安心感の中で中学校への移行を果たしていけるように配慮していくことである。

「適切な段差」とは、小・中接続では「上級学校へ進学した」という子どもたちの自覚と喜びを学習へのエネルギー（モチベーション）として活かしていくことが、一つの意味になると考えた。「ギャップ（とまどいやつまづきの要因）としての段差」でなく、「ステップアップの実感と喜びをもたらす段差」である。その際、単に小学校と同じにしてギャップを無くしていくのではなく、むしろそのギャップ（ジャンプ）を、小学校の最高学年として学校をリードする中で培われたさまざまな力ややり方を活かして、子どもたち自身が乗り越えるかたちで、新しい環境の中で確かにやれるという自信を育てていくことが大切だと考えた。

(3) 小・中接続期の時期区分とねらい

小・中接続期カリキュラム研究では、接続期の時期区分をおこない、各時期に、どんなことを重点的に指導する必要があるのかを、小学校と中学校双方で検討した。時期区分は表にある通りである。

「分野教科面から考えられるねらい」では、小学校から中学校に進むにあたって、徐々に「具体的な操作から抽象的な思考」にレベルアップするように、「なめらかさ」と「段差」を織り込むことを意識した。また、多様な価値観に触れ交流することも大切にしている。

「生活面・自治的な面から考えられるねらい」では、多様な価値観に触れ交流しながら、自分が所属する集団において自分の役割を発揮し一員として責任ある行動をとることも大切にしたい。特に、中学校は、生徒会活動が盛んで、小学校の学習分野での学びにおいても責任ある言動を大切にしたい。中学につなげたいと願って設定したねらいである。以下、詳細は次の表をご覧いただきたい。

表 「小・中接続期の時期区分とねらい」

期	時 期	分野教科面から考えられるねらい (メンタルな面からも配慮して)	生活面・自治的な面から考えられるねらい (メンタルな面からも配慮して)
	6年生9月 ～卒業まで	○学習分野の学習において、異なる価値観や考え方を尊重しあおうとする。	○自他の良さを発見する姿勢を育み、自分自身の成長を振りかえる。

接続前期		<p>○具体的な学習とだけでなく、少しずつ抽象的な思考を働かせる学習に取り組む。</p> <p>○漢字や計算など地道に努力してできるという達成感を味わう。</p> <p>○中学校で始まる新しい学習への期待感をもつ。特にOWNを生かす。</p>	<p>○異なる価値観や考え方を尊重しあおうとしながら、集団や諸行事において、自分の役割を発揮し、学年や学校の一員として責任ある行動をとる。</p> <p>○朝食をとる、睡眠をとるなど、生活のリズムを自分で整えることができるようにする。</p>
接続中期	<p>中学校入学からゴールデンウィーク明け</p>	<p>○小学校での既習事項を生かせば学習課題を解決できるという見通しをもつことで、安心して中学校の未知の学習に取り組む。</p> <p>○グループ学習の中で一人一人の良さが生かされ、自分の存在の価値や役割を実感できる。</p> <p>○小学校時代の基礎の復習と定着を図りつつ、その上に新しい学習を積み上げていく。</p>	<p>○中学校での学級、学年の生活において、新しい出会いを大切に、仲間づくりを進める。</p> <p>○附属からの入学生については、幼稚園・小学校から一緒に友人たちへの固定的な見方を、新しい教師・上級生・外部入学生との関係づくりの中で、見つめ直していけるように指導していく。</p> <p>○小学校の最高学年としての経験を引き出して、自主的・自治的な雰囲気醸成していくとともに、学年の諸活動や上級生との交流を通して、中学校の自治モデルを取得する①(学級づくり、生徒会の運営)。</p>
接続後期	<p>ゴールデンウィーク明け～10月中旬 (中学校の2学期制の前期終了まで)</p>	<p>○小学校での既習事項を生かせば学習課題を解決できるという見通しをもつことで、安心して中学校の未知の学習に取り組む。</p> <p>○中学校らしい、抽象的思考を育み、それを生かして論理的に考える新しい学習課題に取り組み始める。</p> <p>○中間テストへの取り組みを通して、中学校での家庭学習のあり方を指導し、自律的な予習復習等、自学の態度を家庭学習の形で実現していく支援をする。</p>	<p>○中学校での新しい仲間の中で、次第に自分らしく表現できるようになる。</p> <p>○体育祭の諸活動に取り組むことを通して、自治モデルを取得する②。</p>

(4) 中学入学以降の「接続中・後期」における新しい取り組みの試行

ア 「なめらかな接続」を意識した実践

理科では、小学校でも扱ってきた植物から授業を始めて、次第に抽象的な内容や思考へ進んだ。

中学理科の最初は接続期への配慮と時期的なことを考慮し、『植物』(実態が伴うため、対象を捉えやすい)から学習をおこなった。事前にアンケート調査を行い、どの植物を教材として使用するか決め、授業を展開した。『植物』終了後は、『身のまわりの現象』に入り、中学理科として始めて抽象的概念に触れるということで、「からだで感じやすい」という観点から『音』の学習へつなげ、『光』、『力』を終えた後、小学校での学習の関連性や連続性の観点から『気象』を学ぶ上で欠かせない『水の状態変化』を学習した後、『気象』、『粒の正体』へとつなげた。中学理科では、それまでのマクロな視点からミクロな視点への変換が、大きなポイントとなる。しかし、「まず、からだで感じる」ことが子どもの興味、関心、学習意欲向上面で効果的なことは小学校同様である。

最初の『植物』の単元では、肉眼で対象を捉えたあと、顕微鏡で拡大して観察を進めることにした。子どもたちは、肉眼では捉えることのできなかった植物の細胞内にある葉緑体の流動や気孔の開閉に気づいた。その時、子どもたちは顕微鏡を真剣にのぞき込んでいた。色、形だけではなく、動きを含め、見たもの、気づいたことすべてが記録された細かなスケッチ、驚きが込められた感想などから、関心の高まりや、学習活動への意欲が感じられた。

『音』の学習では、実際に音叉やギターに弦に触れ、「物体の振動が『音』をつくり、伝える」ことを、「からだで感じる」体験を通して見いだした。その後、オシロスコープを利用して、弦の振動と音の波形を結びつけてビジュアル化し、目に見えないものの概念理解へ結びつけた(『光』と『力』でも、同様)。『音』は物質ではなく、その上、『植物』とは対照的に実体を捉えにくいものである。振動の様子が、時間の経過とともに

どのように変化するか考えるという点で、『音』の授業のクライマックスと言っても良い部分である。ここでは「難しい」と感じる子どもあらわれることを予め意識し、子どもがそれまでの授業で見慣れ、体験した「弦をはじく」作業と関連づけ、音の波形が自然に想像できるよう、ビジュアル化する作業を通して、発問の展開を工夫しながら授業をおこなった。実際に波形をスクリーンに表示した瞬間、「あっ！本当だ！」と言った表情や発言が見られ、その後の『光』の学習では、『音は波で表せるから、きっと、光も波で表せると思う』と、演繹的に考えて予想する子どもの姿があった。(中学校理科)

イ 「適切な段差」を意識した実践

教科学習の面では「学習内容について知的な高まりを感じられること」、「小学校での学習経験を活かして達成の見通しがもてること」などに配慮することが大切である。例えば、国語科では「小説のストーリー展開をとらえて－『麦わら帽子』－」の学習を次のように展開した。

単元名：小説のストーリー展開をとらえて －『麦わら帽子』－

文学作品（小説）の読みのベースはほぼ小学校で学習している。そこで、体験的に積み重ねられた小学校での学習経験に対して、「なるほどそういうことだったのか。」「そんな読み方の視点もあるのか」と気づいていけるよう配慮した。文学批評を背景に、小説の作品構造を読む。その際、小学校で培ってきた、叙述に即して場面の様子を想像する学習をふまえ、そうした「読み」が作品構造上にどうあらわれてくるかを読みとる学習である。

たとえば、1年蘭組では、「麦わら帽子」の最高潮がどの瞬間かを検討する学習の中で、次のようなやりとりがあった。

S1: やっぱりカモメが翼をパッと広げるところが一番の山場だと思います。それが目印になって解決していくでしょう？

S2: でも、「海がへそまで上がってくる」のところでマキの怖い気持ちや緊張感が一番高まっていると思います。緊張感で言ったところが最高潮だと思います。

S3: 「へそまで」のところは高まっていく途中だと思います。「海がへそまで上がってくる。マキは麦わら帽子を差し上げる。……腕がしびれてくる。麦わら帽子が揺れる。」ってあるでしょ。「……る。……る。」ってたみかけるみたいに書かれていて、だんだんマキの緊張が高まっていくのを感じます。

文末表現に着目したS3の発言をきっかけに、子どもたちが次々に「そうか」「わかった」「やっぱり」などと反応して読みが急速に深まっていった。(中学校国語科)

それらの配慮事項をふまえて、小・中接続期の教科や生活の実践に取り組み、その実践をもとに、小学校側では卒業までにどんな取り組みを行えば良いのかを考え実践した。「(2)各分野・教科におけるカリキュラム」には、それらの考察を加えて掲載しているので参照していただきたい。

(5) 中学入学オリエンテーションの実践

中学校に入学し、入学式からの1週間はオリエンテーション期間を含めて特別なカリキュラムを組んでいる。子どもたちは中学校へ期待と不安を抱いて入学してくる。この不安を取り除くとともに期待にこたえる必要があり、これらのことを、この第1週目に焦点をあてて実施している。この活動が今後の中学校生活に影響するし、中学校の仕組みや方法などを学ぶことも大切である。附属中学校では、入学式の翌日から4日間オリエンテーション期間を設け、5日目から授業を開始する。

この4日間には、①自己紹介や学年レクなどの交流プログラム、②校内巡り、図書室ガイダンス、生徒会組織と部活動の説明、コンピュータオリエンテーション、などの「入学ガイダンス」的内容とともに、③学年学級の仲間集団づくり（学級目標の決定、生活班の編成や係分担等）を行う中で、集団への帰属感をもって生活を始められるように配慮している。今年度のある学級では、班や学級の組織作りの時に、生活班の名前を決めようと言うテーマで話し合いをおこなった。その時に、様々な案の中から「戦国武将」の名前を付けることに決まった。その話し合いを通して、初めて出会った子ども同士も、お互いの興味関心を知るような場面が生まれていた。教科とは違う意味での学びあいが入学直後から始まっているのである。

3. 各分野・教科における接続期研究

ことば・国語・英語

(1) 接続期研究の概要

〈ことばから国語へ〉

H18年度は、中学校での接続中・後期の授業づくりからスタートした。進学というステップアップの喜びを大切にしつつ、小学校で培った力を活かして学習課題を解決できる実感をもてることを、小・中をつなぐスタート時期の重点とした。具体的には次の2点に特に配慮した。

ア 小学校の体験的・総合的な学習経験を引き出しつつ、より意識的な知識・技能として再認識したり活用したりできるようにと考える学習づくりを構想する。

イ グループ活動や対話を多く取り入れる際、小学校の学習経験を活かしつつ、司会役など役割分担をより明示的に交替で担うことをとおして、公共的な場としての対話空間を作るようにする。

9月以降は小学校6年生における接続前期の指導のあり方の開発に取り組んだ。中学校の国語学習に臨むためには、小学校で学ぶべき基礎的な力を定着しておくことが求められよう。今年度は次の各点を重点に授業づくりを進め、「古典を読み、実際に演じ、共有し、理解したことを新聞の形にまとめる」といった総合力が求められる学習を行った。

ア 単に中学の学習を先取りして備えるのではなく、ことばの決まりや漢字の基礎的な理解はもちろんのこと、文章を読んで理解し自分のことばで人に伝えるように書くことができること

イ 古典導入を入り口として、日常のことばと異なった言語へと目を開き、言語学習としての国語や英語の学習へつながる学習経験を育てること。

小学校から中学校への進学で、ことばの学習の面でどんなことが子どもたちにとってギャップになっているのか、どんな能力をこそ伸ばすチャンスなのか、なめらかな接続と発達を促す段差をどう作ることが望ましいのかを実践に即して検討した。

〈ことばから英語へ〉

附属小学校では、今のところ英語の学習を導入していない。親しむ程度の英語の時間をとるよりも母語としてのことばの力、思考するためのことばの力をしっかり育ててから外国語を学ぶことの方が、重要との考えからである。しかし、今年度は小・中それぞれで「ことば」から中学校「英語」への自然な移行を意識した取り組みを行い、接続期における英語学習のあり方を検討する実践の一つとした。

○漢語・和語・外来語など言葉のルーツを学ぶ学習（6年生のコラム教材）

○古典のように時代の幅で多様な言葉づかいにふれる（社会の要請にもなりつつある）

○中学英語への橋渡しとして、6年生に対し音声面の学習を中心としたガイダンス的な授業を行う

○入門期の学習の1つとして、ローマ字の発音の知識を参考にしながら、英語の「母音・子音」へと広げる学習をおこなう。（中1特設授業）

○入門期の学習の一貫として、フォニックスの指導を集中的に行う（4～12月の通常授業）

○小5生と一緒に、日本語における外来語のルーツを考えながら、最近の英語由来のカタカナ語と本来の発音とにふれる学習を行う。（10月、OWNプラン（自由選択学習）期間に）

○適時性を考えて、発音や発声に抵抗感がまだ薄い中1という時期に、マザーグースの暗唱を通じて音声指導を行う（10月OWNプラン、12～3月の通常授業）

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学 1年生 中期 中1 4月～ GW明け	○「響く声で読もう」 ・響く声の基本を学ぶ。 ・意見を調整し台本化。 ・発言ルール等の共有。	□国語の学習開き。 ■音声化による身体化と解釈という思考操作を行き来しつつ読むように。	①時期的に声が出やすい。②意見交換が活発に行われ、それを音声化に活かすという学習を楽しめたようである。 ③声を出すことによる授業開きは入学期には効果的。自分たちで選んだ詩によるグループ学習まで行っていた。
	○「自分新聞を作ろう」 ・自分を見つめ直し、理解しあうために工夫して自己紹介する。 ・新聞の表現形式を活かして伝える。	□附小出身者には友人を再認識するきっかけに。他校出身者には新たな出会いと交流の機会になる。 ■小学校の新聞作りを基にステップアップを図る。	①課題に正面から取り組む時期であり創意工夫も見られた。 ②話し合いを経て記事を修正・推敲するなど、協働体制は見られたが、協働のきっかけにとどまった感がある。 ③新聞の紙面割りの工夫の知識は興味をもって取り入れようとしていた。予想以上に手際良かった。廊下に展示して交流の契機したことは相互理解の上で効果的だった。
	○「麦わら帽子」 ・小説の構造をとおして主題を考える。 ・文学批評による小説の読み方を知る。	□小学校の読みの経験に批評読みの経験を加える。 ■批評の読みの視点や用語の概念について、実際の作品をとおして理解。	①ノートの記述にも「今までとは違って」など、小学校と違う読み方を新鮮に思っ取り組んだ様子がうかがえた。 ②最高潮を巡って議論が起こり、納得したりそれぞれの意見を強めたりが見られた。自分の解釈を創るという出口とした。 ③文学批評の専門性の導入により知的な関心の高まりを感じた。
	【英語】ローマ字の復習とフォニックス指導を兼ねた特設授業。	□アルファベットの発音を整理する。■英語の発音のルールを確認する。	①発音指導の基礎を固めるのは中1前半が適している。②武道場という広い場所で協力の必要なゲームを取り入れた(後半)。 ③発音指導に身体性は不可欠。中1前半は身体も口も柔らかく恥ずかしさもないので時期としては適している。
後期 中1 GW明け ～ 10月	○食感のオノマトペ ・身の回りのオノマトペのはたらきや表現の効果に関心を持つ。 ・他人の考えや感じ方の違いを認め合いながら話し合いに参加する。 【英語】「カタカナ語～英語・日本語・何語？」 小中OWNプランの授業(小5生と中1生)	□グループ学習が定着してきたが、人任せにしがちな姿も出てくる時期。 ■そこで役割を与えることで積極的な参加を促す。グループ構成の工夫が必要となる。 □母語を客観的に見られるようになる時期。 ■小5生が安心して英語を発音できるように。	①夏休み明けで意欲も高く、グループ学習に適していた。 ②話し合っって新しい結論を出すという意味では協働できたが、収束の鍵を示せなかったため混乱も生じた。協働学習の出口を明確にすべきだった(まとめ方、整理する視点等)。 ③指示の与え方や情報の提示の仕方など、授業者側の加減で、生徒同士の交流が活発さが変化する。生徒に発見することの達成感や満足感を持たせるために、授業者の工夫が必要である。 ④小5は母語を客観的に見られるようになる時期。中1英語はまだ平易。言語の授業としては双方適切な時期である。 ⑤課題が簡単で双方の学習歴の差が出ない授業だったのでうまく協働していた。落差を楽しみ風にはならなかったが。 ⑥少人数で和気藹々とした雰囲気の中で実現できた。

*** 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと**
 ○ノート指導を工夫してほしい。字形・大きさ・行揃え等乱雑な生徒が多い。書くことで自らの考えを生み出した整理したりすることに加え、高学年では「伝えるための文字」「伝達としての表現」をしっかり育てて欲しい。
 ○接続前期～中期は生徒の発言が活発な時期であるが、グループ学習では他の意見に耳を澄ます姿勢が弱い。また逆に発言にあたって、聞き手の広がり意識したポジション取り(みんなが見渡せる位置に移動する等)を意識できるよう、聞き手を大切にして伝える意識を育てて欲しい。自然にそら体が動くように。
 ○漢字の学習習慣が弱い。学習漢字の定着を図るとともに、家庭での反復学習の習慣作りに配慮して欲しい。
 ○英語にもつながるが、字の形をとる指導を。無地ノート使用の方針を学校全体で話し合っってやめてみては。

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学 6年生 前期 9月 ～ 3月	○「古典に親しむ」 ・古典や古典芸能に親しむ。 ・友達を感じ方や表現の仕方を知り、良さを認める。 ・学んだことを自分なりに整理しまとめる	□ことばの多様性を知り、中学校での外国語学習につなぐ。 ■古典として知識に偏らず音声を楽しむように劇化するように設定する。 ■友達との協働を意識しグループ学習を行う。 ■本物にふれる機会を持つようにする。	①狂言や落語等親しみやすいものを選び劇化したことで抵抗なく活動することができた。また、古典だからと構えることもなくいろいろなことばのおもしろさにふれることができた。 ②友達とともに演ずることにより共に作る楽しさや難しさを知り、他のグループの演技を見て刺激を受けることができた。 ③子ども達は、意欲的に取り組みそれなりに成果が見られた。だが、この時期は、文脈に沿った読み取りや読み書きを丁寧に指導したい時期でもある。活動が中心になるような学習は時間が多く取られてしまうので3学期に行うとよいと感じた。
	○「生きるということ」 —自分で選んで— ・場面の様子や人物の気持ちを考える。 ・理解したことや自分の考えを整理し友達と交流する。	□自分で課題を見つける。考えを交流し高めあう。 ■2作品から選び、共通のテーマについて考えをまとめる。 ■役割を決め主体的に学習を進めることができるようにする	①これまでの学習経験を生かし、自分たちで課題を見つけることが自信につながり、中学校での学習にも意欲を持ってと陸区ことができる。 ②他者との考えの異同に気づき話し合い聞きあいながら高めることができることがよい。 ③子ども達が様々な学習方法に慣れ選択できるとよいのだが、今年度は十分な耕しができないままに実践してしまっった感があった。また、話し合いに十分な時間を確保してやれなかったことも反省点である。特に接続を意識する学習は3学期に重点を置けばよいと感じた。(小学校ことば：松木正子)
	【英語】 中学英語への橋渡し授業を1時間行う。	□母語とは異なる言語を身体で体験する。■英語への不安を除く。	①母語もしっかりしてきて英語の発音への抵抗感のまだ薄い小学校高学年は導入に適している。②特になし。③ALTとの授業を楽しんでいた。身体がほぐれていた。

市民・社会科

(1) 接続期研究の概要

ア 市民・社会科の特色と「学びの概要」

市民・社会科においては、「市民的資質の育成」のために、「社会的価値判断力」、「意思決定力」の育成を特に重視し、子どもが価値判断や意思決定する場面設定型授業を取り入れて、その力を育てている。子どもたちを様々な論争を伴う事象に出あわせ、相手を説得する切実さを感じるような場面設定を工夫し、討論を中心にした授業を展開することで、自分の意見の根拠を得るために調べる活動は必然的なものになり、学習のプロセスが協働の学びそのものとなるのである。今年度の小学校の市民と中学校の社会科の大きな成果は、小・中を接続させる資質・能力として「価値判断力と意思決定力」（協働のねらい）、「社会的事象をとらえる見方・考え方」（適時性のねらい）の二つを明確に打ち出すことができたことである。詳細は『市民・社会科の学びの概要』を参照して欲しい。

イ 「小・中接続期」で意識した「なめらかな接続」と「適切な段差」

授業実践をふりかえり、同じような価値判断に関わる学習を、年齢にふさわしい内容で繰り返し学ぶことの意義を改めて感じさせられた。例えば、「多様な価値観」に関わる地理的な内容については、小5で「沖縄の人々が豊かになれる仕事をする会社をつくろう」で学んだ子どもが、中1の小・中接続期に「世界の国」の「豊かさとは何か」という題材で学んだ。沖縄に暮らす人々の立場で考えた「失業者の保護」「豊かな自然」などの「豊かさ」のイメージを適用しつつ、「資源」、「平和」、「文化」、「家族」などイメージを挙げ、さらに統計を活用してより抽象的な内容にふれていった。この学習は中2の「世界の国の調査」、中3の「南北問題」等の学習にもつながる。繰り返し学習することで、複数の視点で考えることを促すとともに、さまざまな資料を活用する力を身につけていくのである。

小・中接続期に意識するべき大切な点をいくつかあげる。「なめらかな接続」に関しては、小は中の、中は小の学習内容や方法を意識した授業を行うこと、さらに、同じテーマ・価値に関わる内容について、接続期に繰り返して学習することである。この繰り返しの学習が、子どもの考える視点を次第に広げ、抽象的な思考を促すという意味で、「適切な段差」を設けた学習ともなるのである。

昨年度の小6（接続前期）は、「日本と中国」で、政治的・歴史的・経済的視点など、中学でのより総合的な視点を意識した。今年度の小6は、「長く続いた戦争と人々の暮らし」で、調べた具体的な事実をもとに「戦争・平和・命」について自分なりに語ることを意識した。「〇〇国にホームステイしよう」では、住みたい国の生活について多様な価値観に出あうことを意識した。どれも、中1（接続中期）の「豊かさとは何か」という題材につながるものである。今年度の中1の接続中期・後期では、グループ活動などの学習方法とともに、「多様な価値観」というテーマを連続させ、小学校から「なめらかな接続」をさせたものである。

ウ 課題

同じような価値を場面設定型授業で学ばせることで、教員の小・中連携意識は強まり、子どもは無理なく新しい学習で「豊かさ」のイメージを膨らませた。課題として、小学校では経済的な見方・考え方の実践を、中学校では中1・2の地理的分野歴史的分野での場面設定型授業の実践を増やす必要があり、教員が子ども同士の学び合いや語り合いをつないでいくことをより心がける必要もある。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践して分かったこと 考察, 評価, ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容, 題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由 ■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学生 中期 中1月 GW明け	○世界と日本の地域構成 世界の地域構成 世界の国	・自由貿易のもと, 安価な労働力の供給国として ・接続期にみられる, 地域に 関心を持って取り組む姿勢を よりいかにする。	①作業的な学習をこれまで以上に多く取り入れたが, 子どもたちが非常に前向きに取り組む, この時期にふさわしい内容となった。 ②新聞の中から国名をさがす活動では, 個人的な作業を実施してからの, その結果をもちよる形で少人数グループの活動を行い, 附属小以外の小学校出身の子どもも, 話し合いになじみやすいように配慮した。どのグループも, 国名か地域名か, どの大陸の国か, など既得知識や地図帳を活用して, 活発に活動を行った。最後に, 各グループの結果を学級全体で検討し, 新聞にのっている国の傾向を分析できた。 ③これまでにもゲーム・クイズ的な学習や国名調べなどの作業をおこなってきたが, グループ活動と結びつけることは, 学習への意欲を高めた結果となった。作業のスピードの個人差は, 家庭学習で対応しようとしたが, 不十分な子どもがいて対処できなかった。
後期 中1 GW明け ~ 10月	○世界と日本の地域構成 「豊かさ」とは何か ・地図帳・統計資料を活用する力を身につける。 世界の国々への関心を高める。 ・「豊かさ」という価値観に関わる内容について, 統計を活用しつつ, 自分の意見を述べる。	・目的をもって統計を活用する。 ・中3の公民的分野の内容を 導入的に取り入れること によって, 社会をみよる 目を養うという, 今後の 学習への関心を高める。	①「豊かさ」という抽象的な内容を中1で扱うことによって, 自分の生活体験からの発言や素朴な疑問などをもとに検討することができた。社会への関心を高めるという点で, この時期に扱うことは有効であった。 ②「豊かさ」について, グループでマッピングすることで, さまざまな意見にふれ, 「自分とは違う考えがあることがわかった」という感想が多くみられた。 ③単に統計を用いて○○の多い国を調べる, とするよりも, 調べる意味を感じながら作業に取り組む事ができていた様子であった。しかし, 自分なりに統計を活用して意見をまとめるまでにはいかなかったが, 十分に統計の意味を理解して「豊かさ」を 検討し全体で共有することができず, 中途半端な実践になってしまった。今後の世界地理の学習などでこのテーマを継続的に扱っていききたい。

*** 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと**
 根拠をもって自分の意見を述べること, 基礎的な知識や資料を活用する力をもつこと, の両方のバランスをとれるとよい。小学校で写真資料などをじっくりと読み取る力をつけ, さまざまな資料にも親しんでおくとよい。資料を活用する力は個人差が大きく, 中学での学習ののびに大きく関わる。中学で統計や文章資料を活用するためにも, 計算力や漢字・文章読解力は大切にしたい。入学前アンケートでは, 「暗記が多いのでは」ということが中学校社会科への不安としてあげられていた。楽しみながら知識を吸収する力は小学生の方が優れていると感じられるので, 学び方に慣れておくと不安も軽減できると思われる。

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践して分かったこと 考察, 評価, ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容, 題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由 ■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学生 前期 9月 ~ 3月	○長く続いた戦争と人々の暮らし ・課題について, インタビューや文章資料から調べる ・戦争当時の様々な立場の人の生活や気持ちから, 「平和」についての自分の考えを具体的にもつことができる ○●●の国にホームステイしよう ・課題について, インタビューや文章資料などから調べる ・異なる生活様式や習慣, 価値観を認め合っていくことの大切さを考える	□歴史上の人物・身近な祖父母・友だちの考えなど, 多様な考えに出会うことができる ■書かれている事実から予想して, 当時の様子や人々の気持ちを考えさせるようにした □世界の様々な人々のくらしや考えなど, 多様な価値観に出会うことができる ■気候や地理などのグラフからも, 生活について予想させるようにした	①戦争について「原爆を受けた人」「東京大空襲の被害を受けた人」「沖縄戦で被害を受けた人」「学童疎開を体験した人」の立場に分かれて調べ, その当時の人々の気持ちを調べた。それを元にして「平和」について自分なりのイメージを持つことができたことは意味があった。 ②4つの立場に分かれて調べ, 4人グループで話し合った。小グループで話し合うことから, 4つの立場の人々の気持ちがより感じられ, 様々な考えに出会うことができた。 ③「平和」について, 「戦争が終わったら当時の人々はどういう国を作りたいと願ったか」と言う発問で考えさせることからより具体的に「平和」について語るようにした。しかし, それを子どもたちが人ごとではなく, 具体的事実をもとにして自分の考えを語るようにするには, まだ手だてが必要であった。実践者が何を考えさせたいか, ねらいをはっきり持って取り組むことの必要性を感じた。 ④自分のホームステイしたい国を選んで, 衣食住を中心とした生活について調べることは, 子どもたちの調べる意欲を喚起することができた ⑤日本と自分がホームステイしたい国との共通点や違う点を明らかにし, 友だちと情報交換し合うことで, 世界には異なる生活様式や習慣, 価値観を持っている人を知り, お互い認め合っていくこと大切であることを知る。 ⑥全体の話し合いの場では, 子どもの言葉と言葉をつないで, 子どもの学びをつくらせていくことが足りなかった

算数・数学

(1) 接続期研究の概要

本研究開発を通して、小学校から中学校への移行期を「小・中接続期」として捉え、その時期における指導法や指導内容を工夫することで、少しでもそれぞれの学校間の違いを認めながらも、子どもたちにとって学びの一貫性が感じられるようにしてきている。

算数・数学部では、小学6年生の秋以降から中学1年生の秋までの約1年間を小・中の接続期として捉え、前期・中期・後期を次のように設定し学習指導を工夫している。

ア 小・中接続前期 小学校6年生の9月から小学校卒業時まで

この時期は、小学校6年間の学習内容の整理を行う時期と捉えている。特に、学習内容を各領域ごとに見直したり、順次学んできた単位を、一定の基準で見直してみてもわかること等を整理活用する。また、学習内容をいくつか組み合わせて解決する総合的な問題に取り組ませることで、算数における知的営みの楽しさの体験もできると考えている。さらに、上級学校に進学した際に、学びについて独り立ちできる—自分の見直しができるように手立てを行っている。

イ 小・中接続中期 中学校入学時から6月半ば（2学期制の前期中間テスト時）まで

この時期は、中学校に入学し、新しい教科としての数学への期待と不安が混じっている時期である。中学校数学科としては2通りの手立てを試みている。

第1は、短期的な手立てではあるが、小学校での学習内容を生かす数に関わる課題を設定し、なかま作りができるような授業設計を行っている。

第2は、中期的な手立てとして、第1学年前期における図形領域の並行学習である。中学校では1単位時間（以下「コマ」と呼ぶ）45分で、1週間に4コマ実施するうちの1コマを平面図形の学習に当てている。中1ギャップがあるといわれる時期にそれまで小学校で学習してきた内容をもとに取り組むことで、子どもたちには「なめらかな接続」が実感できることがわかってきた。

ウ 小・中接続後期 6月半ばから夏休みを挟んで10月初旬（2学期制の前期終了時）まで

この期間は、数と式領域では正負の数から文字式を学び、さらには方程式の学習が行われるなど、子どもたちにとっては、まさに数学の入り口に立って、次々に新しい内容を学習する。この時期に「発達を促す学び」が実感できるような手立てを行っている。すなわち、新しい内容を学習しつつも、小学校との学習内容と切り離されたものではなく、既習事項の拡張であったり、延長上に位置するものであることを子どもたちが納得でき、不安感を持つことなく取り組めるような工夫をしている。

それぞれの期において、学びの概要を実践段階で活用し、連携をもとにした内容で指導した。以上のような取り組みをしてきたが、特に前期においては、小学校の授業を中学校の教員が参観し、中期には中学校の授業を小学校の教員が参観するなど、実践段階での相互交流を積極的に行った。子どもたちの様子をお互いに理解することで、これまで以上に実態を知ることができ、発達段階の相違などを考慮した授業実践についての協議もできた。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察, 評価, ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容, 題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学生 1年生 中期 中4月 ～GW明け	○「算数」から「数学」へ「4けたの数を5つたす」 ・考えたことを友達に説明する。 ・友達の説明を聞いて、自分の考えを再構成する。	□「算数」から「数学」へ教科名が変わったことによる子どもたちが抱く壁を取り除く。 ■一人一人が考える時間とともにグループで話し合う時間を十分とする。 ■グループでの話し合いが一人の子を中心となることがないように配慮する。	①中学校に入学して、最初の授業になる。数の計算の仕組みを考える内容なので、算数の学習履歴にとらわれることなく、一人一人が考えることができた。全員が進んで参加できる内容となった。 ②一人一人が考えたあと4人のグループになり、気がついたことを出し合い、グループで考えを練り上げていく。あるグループでは、一人の子が仕組みに気がついて、同じグループの友達に説明し、その説明を理解し、わかったことの喜びを表情に表していた。別のグループでは、結論までは気がついていなかったが、それぞれの考えを出し合うなかで仕組みに気がつき、まとめることができた。グループで練り上げた内容を発表し、全体のものにしていった。 ③話し合う時間を十分とり実践したが、発表の時間が次の時間となり、同じ時間の中で行うことで子どもたちの発想や考え方に広がりが出ると思われた。
後期 中1 GW明け ～ 10月	○文字式	□ことばの式から文字の導入につなげていく。(適切な段差) ■文字式における文字の持つ意味を時間をかけて説明する必要がある。	①小学校から慣れていることばの式から導入し、それを文字の導入につなげる。誰もが知っている長方形の面積や三角形の面積から入り、ことばから文字へつなげる。 ②お互いに数量関係を出し合い、それを文字式で表したり、黒板などで発表したものをもとに表現の仕方や処理の仕方について話し合ったりした。 ③数学的な言い回しが理解しづらい子どももいたので、そこに焦点を当てた配慮が必要と思われた。

*** 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと**

○「話しあう力」「発表力」および「自分の意見を書く力」は身に付いている生徒が多く、継続指導して欲しい。

○基本的な計算が正確にできることを身につけて欲しい。そのために、学校および家庭学習においても反復練習などを通して計算力を定着させ、自力で計算力を向上できる力を付けて欲しい。中学校以降において、新規に学習した内容は理解できても、解決過程で計算力が不足するために正しい解決ができない場面が目立つ。また、論理的な思考においても検証を行うことが多いが、計算力が不足するために文字式の操作にも支障がおき、結論まで到達できないことが生じる。

○中学校での学習内容が深く関わるような内容は、小・中連携で必要なもの以外は、特に小学校で事前に学習する必要はないと思われる。

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察, 評価, ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容, 題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学生 6年生 前期 9月 ～ 3月	○関数を式でとらえる(比例のみでなく反比例も本単元として扱う) ・日常の事象から伴って変化する2量に着目してその2量の関係を比例や反比例の関係でとらえる。また、2量の変化の規則性を見つけて、比例や反比例の関係を言葉の式や文字を用いて表す。 ○総合問題を解決するにあたり数量の関係を文字を用いて表し、逆算を用いて式を変形して未知の数を求める。 ・未知数として文字(xやA)になじませる	□乗法や除法の演算式を求答式のみでなく関係式としてとらえ式の見方を深める学習が接続期に適していると考えられる。 □○、□、△を文字に置き換えることによって、式の形式化や一般化になじむことが適切な時期であると考えられる。 ■比例関係の理解(2量の変化の様子、グラフ、式など)は反比例やその他の理解との比較で学習を進めた方が比例や反比例の理解が確実になるとともに深まる。	①比例の関係を理解するためには反比例など比例以外の関係との比較で理解した方が深まることが分かった。(概念、式、グラフなどの比較から) 逆思考や逆算を用いて問題を解決することに慣れている子どもにとっては文字を用いて順思考で立式することにやや抵抗感を感じている様子が見られた。 ②自分の考えを確立した上で他者との比較検討を行い互恵的な協働の学びができることが理想ではあるが、自分の考えを独力でもてない子どもにとっては他者の考えを理解することで協働しながら学びが成立しているのとらえてもいいのか。 ③多様なレベルにいる子どもたちが混在する中で協働して学ぶことの重要性が改めて認識できた。それは、同質集団の良さはそれなりに認めるものの、他の考え方やレベルなど自分と違う考え方や解決方法に出会い、それと比較することによって自分の考えや方法を振り返ることから自分の考えの理解がより深まることにつながるように思える。 協働して学ぶことは学習形態のみを工夫することではなく、他者の考えを自分に引き寄せて考える営みであると考えている。

自然・理科

(1) 接続期研究の概要

自然・理科部では、授業の単元構成や年間計画を立てる前に、幼・小・中を通して身につけたい概念やスキルを見直し、適時性・連続性をふまえて学習内容の再構成をした。

とくに幼稚園では画一的に特定の活動をして特定の概念や知識を教え込む、というのではなく、時期や子どもの興味に応じた自然体験をしている。その体験がその後の小・中学校での興味・関心の持続や概念形成に大きく関わることを重視し、小学校・中学校だけではなく幼稚園を含めて自然・理科カリキュラムの開発を行うことにこだわっている。

とくに、急速に変化する社会においては、単に情報を受け取るだけでは不十分で、その内容を鵜呑みにせず、自分なりに吟味し考え、そしてよりよい未来のために判断・行動できることが望まれる。そしてその自分なりの吟味や判断の具体的な活動が「探究」である。すなわち、課題を見つけ、その課題の解決方法を探り、実際に観察や実験などで追究をし、事実を得て課題を解決する。さらに追究の方法としては社会や地球に害のない方法を選ばなくてはならない。このような活動ができるためには、その基盤として自然事象に対する興味・関心が必要となる。

このような子どもを育てたいという思いがあり、自然・理科部では目指す人間像として次の3つを設定している。

- ① より良い未来の為に主体的に考え、科学的根拠を持って判断行動ができる。
- ② 探究の技能を磨き、自然の普遍性と巧みさを感じ取る。
- ③ 自然の事物現象を謙虚に受け止め、事実から学ぼうとする。

これは小学校だけ、中学校バラバラで身につけるべきものではなく、幼稚園・小学校・中学校、そして生涯にわたって身につけていこうとするべきものである。

一方、自然・理科では、小学校でマクロで扱った視点を、中学校ではミクロな視点で捉えなおしている。

そこで接続期を考慮した学びの概要では、中学校で小学校と意図的に同じ題材や手法を用いたりすることで小学校・中学校通して、自然の概念やものの見方、考え方を矛盾なく身につけさせていきたい。そのため学習指導要領における学習内容の配列は、例えば次のような点が異なる。

- ① エネルギーでは中学1年で力と熱を扱い、状態変化や気象の学習と関連させている。光や音は中学2年に回し、動物の感覚と関連させている。
- ② 物質では中学1年から2年にかけて、原子・分子からイオンまで学習する。
- ③ 地球では天体に関する内容を小学3年、小学4年、中学3年の他に、小学6年、中学2年でも扱い、宇宙に関するスパイラルな学習が組み立てられるようにしている。

このような自然・理科の全分野にわたった「新・お茶の水プラン」を作成し、それに基づきながら段階的に日常の授業づくりを行っている。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学生 1年生 中期 中1 4月 ～ GW明け	○単元：植物 ○題材：アンケート調査から、身近な野草を中心に選択。 ・ミクロな視点で自然事象を捉えることで、新たな自然のしくみを見いだす力。 ・対象を「よく見る」姿勢。	□小学校の授業で触れたことのある題材を、再度使用することができるから。同じ題材でも視点を変えたり、観察時の意識を少し変えたりすることで、それまで気付かなかった事実や発見が学習意欲向上に結びつくことを狙った。 ■小学校までに培ってきたマクロな視点やからだで感じる体験を大切にすること（特に学習の導入部分）。	①事前に行ったアンケート調査をもとに、「それ知っている！」とほぼ全員の生徒が反応するような題材で授業を行った。まず、マクロな視点（肉眼）で観察を行い、触れて感触を確かめたりすることなども大切にしながら、観察器具を用いたミクロな視点での観察を行った。同じ対象を違った視点で捉えたときの様子の違いから、ミクロな視点で事象を捉えることの意味の大きさを、子どもたちが自ら実感することを狙った。 ②クラスの仲間、教員、中学校の雰囲気慣れにも視野に入れ、二人組み等少人数のグループを作って「野草探し」（事前「いくつか発見できるかな？野草探しのヒント」を提示するなどして意欲向上を図った）を行ったり、顕微鏡を通して見えたものを互いに見せ合ったりする機会を授業展開の中で積極的に設けた。 ③実体の伴なう植物から学習を開始したことは、生徒にとっては「慣れた題材に潜む、知らなかった事実」という点で興味深かったようである。実験器具や刃物の使用についても、この段階でしっかり指導しておくことは重要であると考えている。今回は接続期を意識するあまり、こちらが題材等すべて提示してしまっていたが、生徒の中には、「野草探し」で見つけた植物の中に、「これを観察したい」という希望があったかもしれない。どこまで教員が配慮するかについて、題材や観察の仕方にもう少し幅を持たせて、学習を展開する方法もあったと思う。
後期 中1 GW明け ～ 10月	○単元：植物（接続中期には無かった実験が加わる） ・特に実験の考察において、自分の考えや意見を論理的に表現し、限られた時間で文章にまとめる力。 ○単元：音、光、力 ・目に見えない（実体を捉えにくい）対象を前に、現象のしくみを捉える力。	□中学理科の第一分野では、実体を伴わないものを多く扱う。その第一歩として「からだで感じとる」体験から事象を論理的に捉えやすさという理由から、『音』の学習を植物の次に行い、第一分野のスタートとした。 ■弦や音叉の振動を「からだで感じとる」体験を通して、体験と目に見えない事象が結びつくよう発問を意識し、授業を展開した。	①中学理科で初めて実体の伴わない『音』について、ギターや弦の振動や鳴っている音叉に触れたときの感触に驚き体験など「からだで感じる」体験をもとに学習を展開した。こちらが相当意識して授業を行ったこともあり、子どもたちの反応は想像以上によく、音の概念理解にスムーズに流れ込めた印象がある。 ②接続後期から始まった実験では、「傍観者ゼロ」を基本に、実験に必要な最少人数で実験を行い、一人一人の自己有効感を高めることを狙った。全員が実験の確実な参画者であり、プロセス、結果の証人でもあるため、実験方法を考える段階から、最後の話し合いに至るまで、互いに知恵を出し合い、学び合う姿勢が見られた。 ③接続中期の観察（特に顕微鏡による観察）が中心の授業では、一人の世界に没頭してしまう子どももおり、なかなか協働を盛り込むことが難しい印象を持った。もちろん一人真剣に顕微鏡を覗き込む中で学ぶこともたくさんあると感じるので、状況に応じ協働をうまくとり入れながら学習の展開を図る必要があると実感した。

*** 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと**

○「自然事象から学び、自然の巧みさや普遍性を見いだす」基本姿勢として、実体験を大切に、「自分のからだで感じとる」経験をたくさん積んできて欲しいと考えます。

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学生 6年生 前期 9月 ～ 3月	○単元「星の動き」 ・とかくコンピュータや資料に頼りがちな星の動きの学習を、徹底的に実際の観察にこだわることで習得される、事実から学ぶ力。 ・ほとんど固定しているほどゆっくりな天体の動きを、空間的・時間的にとらえる力。 ・身近な道具や、自分の持っている技量で、観察方法を考え、実行する力。	□現在の指導要領の天体単元の配列が、あまりにも接続に配慮されていない。小学校4年で学習したあと、中学3年まで扱いがなく、実質的に5年間、天体単元の扱いがない。 ■小学校4年での月の観察経験を生かし、実際の星空で星の動きをとらえる方法を考えさせ、6年生らしいより精度の高い観察結果を得られるよう指導する。集団の一員として責任が果たせるような指導をする。	①小学校4年生から中学校3年まで、天文単元の扱いが全くないのは、適時性・連続性の観点から見ても誠に不自然であり、この時期に観察を伴った天文単元の扱いをするのは、極めて意義のあることであると考えている。中学では時期的に実際の観察は難しいこともあるので、この段階では実際の観察（事実から学ぶ）ことに重点を置いた。 ②あと数ヶ月で中学に進学し、新しい集団で生活・学習する児童にとって、集団の中で関わり合いながら学ぶこと（協働）は重要である。一つの試みとして、「班」という名称を改め「研究所」とした。これには、実験中や考察時の関わり合いの機会を多くする狙いと、集団の一員としての責任感を自覚させる狙いがある。この試みは一定の成果があり、生き生きと活動に取り組む姿が見られた。 ③小4と中3の中間で天元構成上重要な時期であること、且つ、小中接続の人間関係を再考する上で重要な時期に、この単元を試行することは、極めて重要だと感じた。児童も、指導者の予想以上に多様な観察方法で結果を持ち寄り、十分に事実から考えることができると実感した。

うた・音楽科

(1) 接続期研究の概要

ア 協働して学びをうみだす

音楽科では、「自分と異なるどのような音楽表現も尊重しあい、ともに豊かな表現をつくりだし、響きあう子ども」の育成を目指している。私たちは音楽を単独な存在としてではなく、ミュージッキングという広い考え方、即ち、社会の文脈の中に息づき、過去から未来に至る中で、人（作曲者・演奏者・聴衆）や背景にある自然や社会的状況、もの（楽器など）と関わりあいながら、常に変化しながら積み重ねられる文化的な営みとして捉えている。教師の役割は、好みや技能が人によって異なるのは当然であることを認め、対話的他者として、時には委ねあったり、葛藤や批判も含めた交流を繰り返しながら、個々の音楽表現を高めていくような授業をデザインしていくことである。

イ 公共性のある表現者を育む～お茶の水プラン小・中連携のポイント

協働した学びの中でも、特に公共性を意識しているのが小学校高学年からの「自分の責任で見通しを持ち、学習を進める、イベントを自分たちが企画運営する」という学習活動である。まさにお茶の水プランとも言えるカリキュラムで、小学校では「ミュージックプランに基づく学習～ミニコンサート」中学校では3年の「音楽プロデュース活動」へと続く。これは、責任ある表現者として育てて欲しいという願いから設定したものである。すぐに成長が見えるわけではなく、困難も伴うが、実際の子どもの変容を見つめながら、市民的資質を育てる立場からも大事にしていきたい。

ウ 今年度の小・中接続期研究から見えたこと～「なめらかな接続」と「適切な段差」

昨年度末、小6に行ったアンケートによると、中学の教科で最も不安を感じていないのが音楽であった。これは望ましい子ども像を共通に掲げてきた成果である。しかし、今年、接続後期（中学1年6月）の授業研究では、子どもの表現行動に対し、小・中の教師間の隔たりが明らかになった。

小学校では「なめらかな接続」を、多種のリコーダーになじんだり、聴きあう・自己選択、・運営したりするといった公共性（異質な他者との関わり）を重視することで捉えている。従って中1の授業に対し、小学校の教師からは「教師主導でなく、個々の経験を生かし、他者との関わりの中で相互に表現を高めたらどうか。」という発言が続いた。これに対し、中学校では他校から入学した子を考慮し「みんな一緒の出発」することでの安心感や一体感を大切にしている。その結果、協働した学びの中でも共同性を重視することが第一であり、既習経験を生かすよりも「心のなめらかな接続」の方を強く意識するという授業姿勢に対して、中学校の教師からは共感が寄せられた。

小・中接続期における学びを、どうジャンプさせるか。適時性、即ち「発達に添っているか」「発達を促しているか」を考える時に、そこでの子どもの学びにはジャンプがなくてはならない。小学校での経験されたカリキュラムをもう一度振り返り、目の前の子どもに応じながら、楽曲や学習方法・形態を直して、学びの概要を作り直すことが今後の課題である。

エ 小・中接続期に対する外部評価

2月の公開研究会では接続前期の授業に160名、音楽協議会にも70名の参加があった。接続期については、小学校の先生から「変声期の指導を中学校の教師や中学生と共に行い、安心感を持たせたい」という声、中学校の先生からは、同じ地域の教師同士の交流を図りたいという声があった。このような教師のつながりを大切にしていってネットワークを広げ、よりよい教育課程の開発を目指したい。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学1年生 中期 中1 4月～ GW明け	○導入期 ・自己紹介 ・諸調査 ・歌う歌を決める話し合い ・持ち物 記名確認	□馴れあいの関係でなく、一人一人の意見が尊重される人的、物的な環境を整える。 □みんなで音楽について話し合っていく流れをつくる。 ■多数の子どもが経験しているからという理由で曖昧にせず、事実を正確に述べ、根拠をきちんとあげて意見を述べさせる。	①中学生として望まれる公共性の意識が、まだ薄い。根気よく指導を続ける必要がある。 ②音楽表現について、表現意欲は非常に強いが、意見を述べたことについて、みんなで実現させようとするところで、方法が見えてこなかったり、話し合いが散漫になりやすい。 ③公共の場を意識して授業に参加する姿勢を養うには、根気よく指導を続けなくては行けないが、始めからそれを前面に出してしまうと子どもの意欲を削ぐ。しかし、当たり前の基本的な生活習慣を当たり前に出るようになっておくことが、民主的な話し合いを実現させる基盤となる。
後期 中1 GW明け ～ 10月	○導入期 ・音の動き方の特徴を捉えて大きく表現する。 ・みんなでワットと歌う ・アルトリコーダー ・無理なく良く響く声・きれいな息づかい ○クラス合唱（校内合唱コンクールに備えて） ・子どもの手で選曲、計画的な練習、表現の工夫を行う。	□学習体験の大きく異なる生徒集団の中で、議論の根拠となる事実や考え方について、皆で確認する。 ■生徒同士での意見の述べ方の公正さ。 ■表現の工夫の根拠となるものの学習が、すぐに実際の表現に結びついて、工夫が明確になるように。	①変声期を迎える子が多い集団のはずだが、音域に関して意識を育てにくかった。 ②子ども同士で話し合っ合唱をつくり上げていく過程では、授業者を介して意見のやりとりをしなくてはならない場面もまだ多かった。 ③アルトリコーダーの未経験者の不安も、秋には収まっていくようすが、自己評価票から読み取れた。男子も含めて、全員で表現の工夫をしていくのは以前にも増して、難しくなってきた。振り返りカード等を活用して、一人一人の成長に合わせた指導も取り入れなくてはならないと思った。

*** 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと**

「基本的な生活習慣を身につける」
・持ち物への記名の習慣をつける

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学6年生 前期 9月 ～ 3月	○全校音楽会に向けた取り組み・大編成による合唱と合奏 「With You Smile」 「未来へのステップ」 ともに2部合唱 「ビルダーズ オブ トゥモロー」 リコーダー合奏SATB 「威風堂々」 大合奏 ☆今年度は週1回学年音楽朝会を持った。 ○ミュージックプランにもとづく学習 自分で曲や演奏方法・形態を決定し、仲間とともに聴きあい、評価し合う。	□合奏の選曲は全員で。自分たちの演奏に責任を持ち、主体的に関わるのがこの時期大切だと考えるからである。 ■楽器やパートは個人の意志を尊重する。が、その子に応じてパート譜を書き換える等、自信を持って役割を果たせるように支える。 ■リコーダーは、指使いが簡単で厚みのある響きをうむように編曲を工夫する。 ★中学の要望を受け、記名に対する働きかけを増やした。 □自己選択、自己決定、自己運営をしながら他者と創りあげる喜びを味わうことが、次への意欲につながる。 ■その子に応じてジャンプできるような助言を行う。	①最高学年として下級生に表現できたこと、自分たちで選んだ曲を堂々と演奏できたことは、大きな自信となった。 ②自分の役割を意識しながら、互いに助けあい聴きあって作品を創りあげた喜びは、その後の音楽行動をさらに積極的にした。 ③休み時間の度に、仲間同士で集い練習しあう姿がみられ、まさに協働して学ぶと感じた。一人の教師が、子ども一人ひとりに技能を丁寧に教えていくことには限界がある。もう少し仲間同士が学び合う時間を保障した方がよかった。 ☆ともに合わせる楽しさを次第に感じたようで、柔らかな歌声が響き始めた。他者への信頼を持って欲しい。 ①民主主義を担う、公共性のある表現者を育てる上で、中学につながる貴重な体験である。 ②個々の興味に基づいた表現を共有し、認めあう中で、集団としての表現の質が高まることを実感した。 ③表現意欲は高まっているが、もっと「聴きあう」手だての工夫。ていねいに取り組む空間と時間を保障することが課題。

アート・美術科

(1) 接続期研究の概要

アート・美術部会では、幼・小・中12年間のアート教育（造形的な表現活動を通しての教育）における、学び方の変遷について話し合ってきた。教師の実感では、アート・美術の学習は、子どもたちが意欲的に取り組む分野・教科として定着している。その中で、“表現の危機”が話題に挙がった。表現する喜びや意欲に乏しく、表れ出る「自分らしさ」に素直に向き合えない子どもの姿である。幼稚園教諭からは、表現をめぐる不安定な時期（4歳児）の報告が、小学校教諭からは、「自分らしさ」にこだわりや自信を持ってない事例の報告が、中学校教諭からは、「自分らしさ」をどのように表すか葛藤する子どもの姿が報告された。ここでは、小学校高学年の時期から中学校において見受けられる“表現の危機”を視野に入れながら、小・中接続期研究の概要を述べたい。

ア 接続期における子どもの実態

この時期の子どもは、よく考えてから表現活動に向かう。自己との対話を通じて、内なる思いや表現したい内容をどのように表したらよいか、葛藤する様子が見られる。そのため、指導者が考えるための十分な時間を保障しない場合、表現主題が見つからない、安易に他者に同調した表現になる、といった傾向が見られる。多くの子が、写実的な表現に憧れをもつが、実際に思い通りに表現できないと苦手意識につながる場合もある。また、他者への意識が高まる一方で、他者と比べて自分の表現に自信が持てず、表現することに消極的になる子もいる。進路の問題等、繊細に心が揺れ動く時期でもあり、子どもの表現や行為に複雑な内面が浮き彫りになることもある。一方、ことばで表しがたい思いを造形表現に託そうと、熱心に表現活動に向かう様子も見られる。指導者や仲間の意見に素直に耳を傾ける時期でもある。

イ 接続期に大切にしたいこと

接続期にあたる子どもの実態を受け、指導者は一人ひとりの子どもに丁寧に関わりたい。子どもの思いが表現に向かえるよう、対話を通じて引き出す支援や、自信につながることばがけが欠かせない。また、狭い価値にとらわれず、多様な表現にふれ、価値観の幅を広げたいと考えている。具体的には、次の3点が挙げられる。①楽しみながら古今東西の美術作品にふれ、作品との関わりを通じて自分らしさを見つめ、見方を広げる題材を取り入れる。②広く社会や身近な生活にもアートの世界が息づいていることに気づく課題を重視する。③常に仲間の表現を見合い、それぞれのよさを伝え合い、互いに学びあう関係づくりに力を入れる。これらは、接続期に限らず「アート・美術」で大切にしたいことであるが、特にこの時期に強調したい精神性を以下に書き出した。関連して、多くの子が、どのように成績がつくのかを気にしている。教師の考えは予め伝え、共通理解のもとに学習を進めたい。

①制作過程や表現活動を通じて得る気づきに、学びの意味があることを繰り返し伝える。②活動に真剣に向かう中で見出す楽しさを味わわせ、その集積としての作品に愛着や達成感が感じられるような経験を重ねる。③上手いー下手といった価値観を拭い、その人らしさがよさとして表現されたものに価値を見出させる。④他者との比較ではなく、表したい思いや願いをもち、それらを表そうと試行錯誤する過程、及びその集積である表現されたものの中に、その子の学びを見ることを周知徹底する。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみても分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学生 中期 中1 4月～GW明け	○「人物クロッキー」 ・毎回、授業の始めに5～10分で人物を速描するトレーニングを行う。継続的に描くことに親しみ、みる力を身につける。	□対象をしっかりみて形をとらえる力を身につけることは、描くことに自信をもつきっかけとなる。 ■慣れてきたら少しずつ時間を短縮し、鉛筆以外に筆ペンやコンテなども描画材として取り入れる。	①写実的な表現に憧れをもつ時期である。よくみて描くことを継続することにより、描くことに親しみ、ものをみる眼を養い、美術科における基礎的な力を身につけることができた。 ②クロッキーは個々の表現活動であるが、共に表現空間を成り立たせる互いの配慮が必要である。目標の共通理解を図ることが重要であった。 ③しっかりと目標を理解できた子どもは毎回のクロッキーを楽しみ、ものをみる力や描く力をつけていた。自身の表現の変遷をふりかえり、継続して身につけた力を自信につなげさせたい。なぜ、毎回人物を描くのか、題材の価値を繰り返し伝えることも必要だった。
後期 中1 GW明け～ 10月	○「オリジナル絵文字をつくらう！」 ・色彩の学習、レタリングで学んだ技術をいかして、漢字の表す意味を考えて絵文字をつくる。完成作品を鑑賞する。(仲間の作品の良い面やアドバイスを書く。)みる人の気持ちを考え、形や色の特性をいかして表現する力を身につける。他者の良い面を発見する。	□新鮮な表現方法(ポスターカラーで平ぬりし、美しく仕上げる)ことによる達成感を味わう。 □表現活動を通じて、小学校で養われたコミュニケーション能力を、さらに高める。 ■表現方法に興味をもたせ、他者意識を大切にしたい指導を心がける。	①他者に分かりやすく伝えるために、色や形を工夫し、丁寧に表現することを目標とした題材である。表現内容、方法ともに、小学校では馴染みがないため、「適度な段差」を意識し、子どもたちの表現意欲を高めることができた。 ②完成した作品を鑑賞しあった際、自分の作品だけでなく友達の作品にも関心をもち、驚きや発見などの言葉が行き交った。紙面を通じて、アドバイスのやりとりをした。 ③他者意識を高め、より伝わる表現を目指して指導することにより、子どもの作品はよくなっていく。指導者が丁寧に子どもに向きあうとともに、子ども同士が協働して互いに学び合うことの大切さを感じた。

* 「接続中・後期」を実践してみても「接続前期」で改善して欲しいこと

- 美術科では楽しく制作を進めてほしいと願うが、まずは、教師の説明をよく聴くことが大前提となる。充実した活動にするためにも、相手の話を静かに聴く姿勢がほしい。小学生の時期から人の話をしっかりと聴く姿勢を習慣づけると、中学校での指導が円滑に進むのではないかと考える。
- 制作後、後片付けができない子どもが多い。自分の作品の出来だけでなく、次に使う人への気配りも是非指導してほしい。
- 「失敗した」といって材料を粗末に扱う子どもがいる。小学生の時期から、材料や道具の大切さを十分に指導してほしい。

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみても分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学6年生 前期 9月～ 3月	○対象を把握して描く「にぼしを描く 想像一本物」 ・想像上のにぼしを描いた後に、本物のにぼしを手に取り、じっくり観察して描くことにより、発見や驚きを通じて“みること”を捉え直す。 ○多くの美術作品にふれる「?のアートカード」 ・古今東西数多くの美術作品から、お気に入りを選び、模写して神経衰弱ゲームをつくる。楽しみながら様々な表現にふれ、価値観を広げたい。	□昨年度中学校1年生で行われた実践を6年生にアレンジして行った。よくみて描く力を大事にする中学校につながる題材である。 ■よくみることで得る発見や驚きを強調する為に、個の表現の比較(想像一本物)を大事にした。みて気づく本物の美しさを力説した。 □多様な表現にふれ、アートの世界を広げて、より見方を深める中学校の美術につなげたい。 ■子どもの興味関心を引く美術作品(画集等)を数多く集め、調べ学習が行いやすいようにした。	①表現の幅を広げたい時期である。一つの表現方法として写実への憧れも強くなる。個の中で、想像と本物の違いを実感することにより、みる行為を新鮮に捉え直す機会になった。 ②描いた作品を並べて見合う。個の中で感じた想像と本物の違いを仲間の作品にも見出し、その人らしさを受けとめていた。 ③本物のにぼしを描く際には、みるだけでなく、香り、手触り、味わいからも対象に迫る。本題材が中学校で行われた背景には、身体性を重んじる小学校からの接続の意識がある。小中連携の話し合いの成果から生まれた題材といえる。子どもは、よくみて描くことを通じて丁寧に関わったにぼしに愛着を持ちながらも、美味しく味わっていた。 ①内なる思いや表現の源を、どのように表し出すか葛藤する時期である。多様な美術作品との出会いが、外からの刺激となり、内なるものと結びつき、新たな自分らしさを見出す題材となった。 ②4人グループで活動する。選んだ作品が重なるとゲームが成り立たないので、話し合いが必要になる。完成したカードで遊ぶことにより、自然に仲間の表現にもふれ、楽しく鑑賞することができた。 ③中学校では、多様な美術作品にふれ、見方を深めていく。その入り口として、遊戯性を生かしながら見方を広げる題材となった。

生活文化・技術家庭

(1) 接続期研究の概要

ア ミニмумエッセンシャル・ライフスキル

『食の自立』を目指し、生活文化・技術家庭では長年にわたり小・中高で連携して取り組んできた。生活の中で使える身に付いた力にするには、少しずつレベルを上げながらスパイラルに繰り返し実習を積み重ねていくが必要になる。基本の包丁使いと火加減ができることは、【なめらかな接続】のために必要である。小学校では5年時に「リンゴの皮むきコンクール」を実施している。庖丁に慣れることが調理への抵抗感を少なくし、家庭実践の意欲を高めると考えたからである。中学校では1年で「じゃがいもの皮むき」、2年で「野菜のせん切り、薄焼き卵コンクール」を実施している。高校では「毎日庖丁で何かを切ることを夏休みの課題にしている。身近な食材を切ればそこから調理へと自然に発展するからである。火を使うことに関しては、小学校では「茹でる、煮る、炊く」を中心に行い、中学校では「煮込む、炒め蒸し煮」に発展させ、高校では高温調理の「揚げ物やオープン料理」へと進化する。子どもの筋力、巧緻性も含めた身体性や判断力等の発達段階と適時性を考慮し、【適切な段差】を設けることで、子どもたちが自身の成長を実感することができる。

イ 選ぶ目を育てる

主体的に生活をつくり生き方につなげるためには、ミニмумエッセンシャル・ライフスキルだけでなく、生活者として選ぶ目を育てることが不可欠である。私達の生活は個人や家庭内に留まっているのではなく、変化する社会との繋がりの中で営まれているという視点を持つことが大切である。消費者教育（グリーンコンシューマ的視点）を別立てにはせず、学習を貫く背骨として、各単元の中に組み入れている。何のためのミニмумエッセンシャル・ライフスキルなのか、選ぶ目なのか、学びの本質を考えさせたいからである。社会との関わりを考えながら主体的に生活をつくる未来を担う自立した生活者としての価値観や姿勢は、なるべく早い段階で育てることが生き方につながると考える。

ウ サスティナブル・クッキング

サスティナブル（持続可能）をキーワードに、発達に即した適時性と発達を促す適時性の観点から、子どもたちの思いと今まで行ってきた消費者教育を結び、『ミニмумエッセンシャル・ライフスキル』と『選ぶ目を育てる』をつなぐ学びを試みようと考えた。調理実習後にアンケートを行ったところ、「ただ食事を作るだけでなく、作る理由、食材を考えて作っていきたい。」「環境のことを考えながら作らないといけない。美味しいもので環境が悪くなれば、良いものが作れなくなるから。」ということが書かれていた。そこで、子どもたちの思いや気づきを【発達に即した適時性】と捉え、【発達を促す適時性】としてサスティナブルをキーワードに、サスティナブルクッキングの調理実習を行った。私たちはいろいろな国の人々や地球上の多くの生命と深く関わりながら生きている。自分の今の幸せや便利さだけではなく、自分の生活と世界の国の人々の生活、地球環境との関わりや将来のこともしっかり考えながら暮らすことは、自分たちの未来を守ることにもつながっていく。特別なこととしてではなく日常の中でこれからも自分にできることを考えながら、ミニмумエッセンシャル・ライフスキルの知恵と技を生かして調理をし、自分の生活を自分の力でつくって欲しいと願っている。それがサスティナブルクッキングである。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由 ■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学生 中期 中1月 4月 GW明け	<p>☆前期は技術分野を実施 下記は後期家庭科分野 に関する記述</p> <p>①生活レポート発表を通 して、小学校に引き続 き、生活に目を向ける 態度を育成する。</p> <p>②生活の自立を意識しミ ニマエッセンシャル・ライ フスキルの ステップアップを行い 生活力をつける。</p>	<p>□接続期にみられる、戸 惑いを減らし、スムー ズに繋げていく為に有 効であると考えから、</p> <p>■しっかり文字を書く、 提出期限を守る等基本 的な学習態度ができて いるかどうか確認する。</p>	<p>①いずれも、無理なく成長段階にふさわしい。</p> <p>②充分ではないにしても、協働から新たな学びを得ていた。2 学年以降実施予定の数多い協働の場面（調理実習やグループ 発表など）に繋がると考える。</p> <p>③生活レポートは負担になる生徒も一部にはいるが、多く子 どもは「発表は1回なの？」とか、「またやりたい」とか「振り 返ると、一年の生活レポートから色々学んだ」と言った声があ がっている。</p>
後期 中1 GW明け ～ 10月	<p>☆前期は技術分野を実施 下記は後期家庭科分野 に関する記述</p> <p>①様々な学習領域で消費 者教育の視点を取り入 れ「選ぶ目」を育成す る。</p> <p>②家庭での実践カードの 課題を通して、授業で の学習を定着させ生活 力をつける。</p>	<p>□消費者教育をまとめて 扱うのではなく、様々 な場面で扱うからこそ、 日々の生活に生かしや すいと考えから、</p> <p>■実践カード課題は、家 庭での協力無しではそ の効果も薄れてしまう。 そこで手紙などを通し て、十分に趣旨説明を 行い、協力を得る。ま た子どもにも細かい注 意点を確認する。</p>	<p>①いずれも、無理なく成長段階にふさわしい。</p> <p>②充分ではないにしても、協働から新たな学びを得ていた。2 学年以降実施予定の数多い協働の場面（調理実習やグループ 発表など）に繋がると考える。実践カード課題においては、 友人と情報交換する（協働の一場面）ことで、教師や提示資 料よりも影響がある場合があった。「頑張ってるんだー」と いった認める声や、「おまえ知らなかったのー？」の一声に発 憤したり。</p> <p>③消費者教育の場面では、子どもが「グリーンコンシューマー」 と口ずさむ程、その知識は定着している。しかし、特別教室 に移動した後、誰もいない普通教室の蛍光灯が付いていたり、 生徒への教員からの揺さぶりが、まだ足りないのだろうか。</p>

* 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと

○成果が出ているので、引き続き消費者としての視点をしっかり持った指導と家庭科を学ぶ意欲の育成
をお願いする。小中連携して実践している『生活レポート』で、テーマ選びに小学校の指導が生きてい
るからである。また、この分野教科に限らないことだが、丁寧に文字を書く・メ切通りに提出物を出す
など学習の基本姿勢を指導して頂きたい。

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察、評価、ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容、題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由 ■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学生 前期 9月 ～ 3月	<p>○サステナブルをテー マに消費者教育を学習の 柱にして「選ぶ目」を育 て、社会との関わりを考 えながら主体的に生活 をつくり、未来を担う自 立した生活者を育む。</p> <p>○レベルを少しずつ上げ ながら調理実習を繰り返 し、調理技能のミニマ ムエッセンシャル・ライ フスキルを身につける。</p> <p>○生活レポートを通し て、生活に目を向ける姿 勢を育て、仲間から学ぶ。</p> <p>○ミニマムエッセンシャ ル・ライフスキルの家庭 実践カードで身についた 知恵や技を生活につなげ る。</p>	<p>□未来を担う生活者とし ての姿勢は、なるべく早 い段階で育てる方が生き 方につながると考える。</p> <p>■自分の生活を調べてデ ータを集め、調査や実 験を通して考える。</p> <p>□自分の力で出来たとい う自信が自己有用感につ ながり、それが次の課題 への意欲を生む。</p> <p>■スパイラルに繰り返す</p> <p>□興味関心を持ったこと を伝えあう中で、子ども 発信型の学びが生まれる。</p> <p>□小学校の学習内容が家 庭実践を通して定着し、 中学の学習に対する自信 や期待につなげる</p> <p>■保護者との連携を図る。</p>	<p>①調理実習については、「自分たちで材料を買って、自分たちで 何でも準備してやりたい」、「ただ食事を作るだけでなく、作る 理由や食材を考えて作りたい」という子どもたちの思いや気づ きを生かす、発達に添う適時性の点では良かった。また、レデ ィネスから効果を生む発達を促す適時性の点では、学習の前と 後で環境に対する意識の変化がアンケートからも伺えた。しか し、調理技能の面では、基礎基本が十分身につけていないとい う課題が残った。</p> <p>②自分たちで課題を決め、食材を持ち寄って実習を行った結果、 和食の食材を上手に使い、工夫して調理を行う班が多く、それ ぞれの家庭の技や知恵を学びあう機会となった。「安全に気をつ け、協力して、時間内に美味しいものを作る」という条件の下、 自分たちで実習班を決めたが、「もうちょっと協力して欲しいと 思うこともあったが、私たちが改善方法を考えるべきだった」、 「協力は力を合わせるだけでなく、他の人の意見も黙って聞く ことだと思った」、「協力することで物事がスムーズに進み気持 ちも明るくなった」など、プラスの評価や気づきがあった。「中 学校へ行ってもチームワークや協力を大切にしたい」、「生活で 使える食事はほとんど作れたので、手順が多く、大変な料理を 中学校でやってみよう」というように、今の学びを中学校へつ なげようという意識の芽生えも見られた。</p> <p>③ミニマムエッセンシャル・ライフスキルの定着は今後の課題 であるが、子どもの「やってみよう」という思いを課題への意 欲につなげて育てるといふ点では成果があったと考える。</p>

からだ・保健体育

(1) 接続期研究の概要

ア からだから保健体育へ

幼稚園から中学校までの12年間を見通し、子どもの発達を教師がお互いに理解し合うことで、校種をまたがる接続期の学習指導に、より有効な方法が見えてきている。

幼・小の接続期では、幼稚園での体験を大切にしながら、みんなで活動することの心地よさや息を合わせることの意識づけなど、生活とからだを通して友達との関係を作っていくことを大事にしている。

そして、小学校での学習では、思い切り身体を動かす場面や、仲間との関わりを深めながら学習を進める場面を多く設定している。また、身体接触による関わりも取り入れながら、いろいろな動きを経験させ、からだの感覚を養うよう心がけている。現状では、運動やからだの時間を好む児童が多いと言うことが出来る。

それらの体験を生かし、小・中接続期の前期に入る小学校高学年では、例えばチームゲームなどで、仲間と関わりながら運動を楽しめるよう、より意識的に働きかけるようにしている。今年度は6年生で、バレーボールへの発展が考えられる「ビーチボールバレー」や身体接触による関わりが抵抗なくできる工夫をした「エキサイティングボール」などの実践で有効性が認められた。

小学校なりの学習の完結を見た上で、中学校ではその体験を生かしつつ、運動文化の特徴を知的に理解することが求められる。その準備段階としての接続期（中学1年生）では男女共修の導入や、教材の学習時期の移動などを行い、小・中の段差をなだらかにする工夫をしている。小学校高学年からの教科担任制の導入も効果的に作用していると考えている。さらに体育大会などの行事を通したリーダーの育成や、グループでの教えあい学習の重視という手だても取り入れながら模索を続けている。

今年度は小学校5年生と中学1年生の合同授業を試行した。小学生にとっては、早い時期から中学校での学習のイメージを持て、また中学生は小学生に教えることで自分の学習も深められるという成果が見られた。今後、接続期をどう捉えるか検討する材料になるとも考えている。

イ 保健分野の取り組み

保健分野では、小・中接続について、以前行った生徒対象の調査によれば、体育と併せて生徒側に不安やとまどいは少ないことが明らかになった。また実際に中学1年の保健の授業で、教師側も授業を進める上で大きな支障があるとは捉えていない。

さらに、以前取り組んだ小・中9年間のカリキュラム開発研究の成果を踏まえ、小学校段階で学習した内容を活かし、中学校で発展させるという授業の工夫などの配慮を行ってきた。その結果、小・中接続期には、大きな問題は生じていないと言える。その背景には、一つに中学1年の保健の学習を後期（10月中旬以降）から開始することで、段差を低くしていることがあげられる。今ひとつには、取り上げる内容を小学校の内容と重複させる工夫があげられるだろう。特に、薬物、喫煙、性などに関わる内容は、繰り返して扱っており、児童・生徒にとってギャップが少なく、また効果的であると考えている。

このように、保健分野では接続期に関して、特別なプログラム開発の必要性は、現時点では考えていないが、学習の適時性や学習内容について、さらに検討を続けたい。

(2) 小・中接続期カリキュラム作成資料

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察, 評価, ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容, 題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由 ■指導上の配慮事項	
平成18年度 中学生 中期 中1 GW明	○オリエンテーション ○100m走	・例年よりも身体を使ったオリエンテーションを心がけた。 ■中学校の運動環境を身近なものに感じられるようにする。 □中学では100mという長い距離を科学的に分析して取り組む。適切な段差	①中学校の環境を理解したり、利用しながら、体を動かすことで小学校の時よりもさらに意識をもって個々の「運動生活」に取り組めるようになると思われる。 ②個人技能の向上であるが、仲間と協力し合ってタイムを計ったり、練習を工夫するような場面を設定して効果があった。
後期 中1 GW明け ～ 10月	○体育大会に向けたクラス取り組み 10人11脚 応援合戦 ○バスケットボール:ゲーム分析 ○スキндаイビング ○着衣水泳	□この時期であるから体育大会の練習をクラスづくりに生かすように工夫する。 ■工夫したルールにより全員がゲームに関わるような展開。 ■ゲームの分析を行い自分たちの課題を客観的に考える。 □小学校での経験を生かしバージョンアップした課題に取り組む	②体育大会に向けた、応援合戦、10人11脚などの種目の練習について、授業中は単学年でも、学習内容には、上級生のアドバイスも含まれたことが、「協働」して学ぶと言うことにおいて効果的であった。 ①②バスケットボールのような小学校での既習ボールゲームで、授業者が積極的に「協働」場面を導くための、ルールの工夫、ミーティングの仕方の伝達、ゲームの分析法やチーム内の役割分担について、丁寧に学習させることからスタートした。今後3年間の体育で取り組む「協働」場面への効果が期待できる。 ①ハードル走は、小学校の「リズムカルに跳び越す遊び」から発展した、競技としての障害走である。またぎ越しの技能やインターバルの工夫については中学で取り組み効果的である。

* 「接続中・後期」を実践してみて「接続前期」で改善して欲しいこと

- 様々な運動を体験して、運動を好きになってきてほしい。(十分改善しているが運動量がもう少し増えると有難い。)
- 友達と仲良く、がんばることを大事にしてきてほしい。(現在、ほぼ、満足している)

期	小中接続期研究による変更内容や重要な留意点の例		実践してみて分かったこと 考察, 評価, ふり返り ①「適時性」の点から ②「協働」の点から ③実践者が実践をどのように受けとめたのか
	○分野教科の内容, 題材・身につけさせたい力	□接続期に取り上げる理由 ■指導上の配慮事項	
平成18年度 小学生 前期 9月 ～ 3月	○ビーチボールバレー ・バレーボールの特性とルールを理解する。 ・バレーボール特有の技能や戦術を身につける。 ・チームで協力して作戦を実行する。 ○エキサイティングボール ・相手に対する礼儀やマナーを理解し実践する。 ・自分の力を出し切り、ゲームに臨む。 ・自チームのメンバーや対戦相手に対して快く応援を行う。	□本格的なバレーボールに比べ、ルールや器具、用具が簡素化された内容であるため小学生の段階で「みんなであつないで楽しむ」という魅力を伝えることができると考えた。 ■3段攻撃を引き出すルールの工夫。 ■チームとしての戦術を意識させる手だて。 □中学校の柔道を意識して、「友達と抵抗なく触れ合える経験」を小学校のうちに積んでおきたいと考えた。 ■怪我が起こりにくいルールの工夫。 ■相手への思いやりやマナーを重視する声かけや指導。	①ルールを簡易化したことや高い技能を必要としないことからほとんどの子が前向きに取り組んだ。動きや戦術の理解や工夫が必要であり、6年生にとって適切な内容であった。 ②「3段攻撃が成功すると3点」というルールを用いたためチーム内での作戦や戦術に広がりを持たせることができた。個人の役割が見えやすい題材であるためお互いに声をかけたり、作戦を修正したりする場面が多く見られた。 ③ネット型ゲームの題材を扱ったのは初めてであったが、馴染みの深いバレーボールということもあり、子ども達の意欲は高かった。中学で出会う本格的なバレーボールの初歩段階としては最適な題材であった。 ①1対1で力を試し合う題材であり、感情や力のコントロールが必要になる。また相手に対する気遣いや思いやりも要求されるため高学年にとって適切な内容であると考えた。また両腕が自由にならないということからも安全性が確保されるという利点もある。 ②相手に対するマナーや礼儀を自分たちで実践しようとする姿がよく見られた。また円陣で仲間を送り出すことや対戦している仲間への応援など「関わる姿」が築かれていた。また対戦者同士は力や感情の調整がよくできていた。 ③身体接触に対して個人差はあるものの全体として抵抗感を示す子はほとんどいなかった。これまでの積み重ねの成果と捉えたい。子ども達の意欲は高く魅力的な題材であると感じている。しかし技能面の整理や運動量の確保など今後に残る課題も見つかった。

4. 小・中接続期カリキュラムの開発ー最終年次への課題ー

(1) プロジェクト会テーマ「関わりあう安心感を新たな学びに生かす」について

プロジェクト会テーマについて、具体的な実践を通して掘り下げる必要がある。「関わりあう安心感」は、教育の課題ともいえる重要なテーマである。特に、本附属校園のように聞きあう関係が不十分な学校であればあるほど、真剣に取り組むべき課題である。

この課題に応えていくには、子どもと教員が語りあえることによる安心感を得ることも大切なポイントになるが、今年度の授業を見ている限りでは、教員が本当に子どもの声に耳を傾けているのかと、疑問に思える授業もあるので、研究のスタイルを、変えないといけない。そのためには、研究授業をやめて「授業研究」をすれば良い。もっと、子どもの姿で語る研究にしよう。今年度は、「関わりあう安心感」で精一杯であった。「新たな学びに生かす」ようにするには、どんな環境をどのように変えればいいのかをさらに具体的な方策も含めて考える必要がある。

(2) 小・中移行期の教育的な意味を考え直す必要がある。

「カリキュラム研究」を主とするよりも、小学校から中学校に進学して、環境の変化が起きることによって、一人一人の子どもにとって一体どんな影響があるのか、もっと問題にすべきである。両者の空気の違いは、異文化理解に関わる問題ともいえるのである。そこで、具体的な方策として、教師の交流が大切である。それは、授業で子どもの学ぶ姿を語り合うことで交流するしかない。「接続期」と「交流」は異なるが、接続期の問題は制度の問題だけでなく、指導観・指導法の違いの問題であるのだから、教員の交流を通して、お互いに知りあう努力をするべきだろう。

(3) 小・中接続期の概念をより確かにする。

特に、小・中接続期が中学一年生夏休みで終わらずに10月まで続いていることの意味や、小学校5年生から中学校1年生の終わりまでを視野に入れていることの意味をアピールする必要がある。

(4) 中学校における「適切な段差」をどのように設定するかを再検討する

本年度の実践を、「発達に添う適時性」と「発達を促す適時性」という二つの視点から考察する。

接続期の学習では、小学校での既習経験が活かせる内容と課題を取り入れ、「なめらかさ」を強調した授業設計を意識した。また、少人数やグループ形式を取り入れて自分の考えを表現しやすくしたり、自分の役割を担ったりするなど、自己効力感を高めつつスタートできるよう配慮した。これらは、子どもたちが感じるギャップを小さくする上で効果を上げ、特に成績下位の子どもたちは安心して中学校での学習をスタートできた。一方、「適切な段差」については、子どもの学ぶ姿に成果を語る事ができる教科もあったが、「発達を促す」という視点で見直す必要も少なくないと思う。学習面で「適切な段差（発達を促す適時性）」に配慮するというのは、学習内容をどのように設定し、それをどのような学習活動や指導で具体化していくことなのか、来年度に向けた再設計を進めたい。

(5) 小学校における「前期」の実践をどのように変えていくのかを明らかにする

今年度の「小・中接続前期」におこなった取り組みのうち、縦割り清掃の取り組みや、自然における研究所員として「自分の役割を果たす」ことは、子どもの行動面から変化が読みとれる。しかし、「学習分野の学習において、異なる価値観や考え方を尊重しあおうとする」ねらいに向けた取り組みについては、教員側に改善点が多いことも明らかになった。教員が子ども同士の学びあいや語りあいをつなぐことや、子どもの関心を触発し、つまづきを理解しながら励ますことなどが重要である。

(6) 小・中接続期の時期区分と「各分野教科 学びの概要」における区切れのズレをどうするか

教科ごとにジャンプする時期がずれていることに意味があると感じる。それぞれの教科にも、またそれを学習する子どもたちの能力発達のそれぞれの面にも、けっして一律には区切れない部分があろうし、

逆にすべての教科で同時期にジャンプすることは、子どもの実態にそぐわないからである。

小・中接続期は、各教科の具体的な学習が関連してくるだけに、幼・小接続期とは違った意味づけが必要になる可能性があるので、このズレをどのように考えていくのか、さらに検討を進めていきたい。

(7) 小学校への英語の導入の問題について

「ことば・国語・英語」および「小・中接続」部会での当面の研究課題として、小学校から中学校に進む6年生に「英語」を導入するかどうか、または導入するとしたらどのように対処しようとするのかということが話し合われてきた。

前提として、「英語に限らず外国語の導入」と幅広く考えてみることにした。英語を小学校から導入するという根拠としては、国際社会に対応するためにできるだけ小さいときから外国語に親しませることで早く身につけさせることができるということで、特に発音は子どものうちに親しむことが効果的だからというのが一般的根拠として説明されている。

そこで「聞き取りの臨界期」について本学の内田教授から指導を受けた。それによると発音に関わる臨界期はかなり幼い（乳幼児期）段階であること。その後は、音楽に関わる聞き取りが代用されるという研究があることが紹介された。そのため、小学生で指導するかどうかと言うことに大きな根拠はないということが話し合われた。また、帰国児童学級の長年の指導経験から母語がしっかりと身につかないと学習においていつまでも困難が見られることなどを考えると、小学校段階ではまず「母語」の指導が優先されるべきであると確認された。

また、中学校で一年生の当初に英語学習についての先行経験（主として塾や家庭教師による）の有無と入学後の英語の学習における成績の追跡調査が紹介された。残念ながら参考資料として調査していることとサンプル数が少ないのであるが、それによると外国生活の経験のある者も含めて既習の学習経験をもつ者は入学当初こそ英語の平均点は高いものの2年生の半ばになるとその差は他の学習の結果と相関していくような傾向が見られた。これらの話し合いや早くに小学校で英語を取り入れた先行研究なども検討した結果英語の導入については見送ることとなった。

だが、今のような国際社会を見通したときにもっと子ども達の「言葉の異文化体験」を取り入れることは必要ではないかということが検討された。中学進学とともに外国語教育（本校の場合英語だが）を受けると同時に小学校段階で言葉の多様性を知ることが外国語を学ぶ上で自然に移行できるのではないかと話し合われた。

この課題に近づくためにいくつかの方策が検討された。

- 方言のような現在使われている言葉の多様性を学ぶ学習。（小学校では4、5年生で扱う）
- 漢語・和語・外来語など言葉のルーツを学ぶ学習。（6年生の言語教材）
- 古典のように時代の幅で多様な言葉づかいにふれる。（国語教育で求められている）
- 英語の発音学習を先行して取り入れる。（3学期に実験的に取り入れる方向で検討中）

今年度は、6年生で「古典」を表現活動として劇化する試みを行った。狂言や能、落語など幅広いジャンルを自分たちで選択し、知識を学ぶだけでなく音読したり、実際に演じてみたりした。この経験を通して子ども達にことばの奥深さや広がりへの興味と関心をもたせることができた。

また、中学校のOWNの学習で「外来語」を取り上げ5年生と中学生がともに「外来語のルーツ」などについて学んだ。また、中学の英語担当者により、6年生への英語学習へのガイダンス（発音指導）も3学期に試みた。外国語学習への「なめらか」な意欲付けになったような感触を得た。

資料 「学びの概要」

目標 人との多様な関わりの中で思いや考えを伝え合い創り出す力を養う。
 思考力や想像力及び豊かな言語感覚を養う。
 日本語の持つよさやおもしろさを体験し、ことばを大切にすることばを養う。

ことばの力		他者と関わり、伝え合いを深める				ことばで考える				ことばを楽しむ				
学年	学習目標	意図	主眼	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点
3,4,5才	3.4.5才	他者の話を聞いたり、他者と話したりすることを楽しむ	人の話をよく聞く、相手に分かるように話す 内容に応じたことばのやりとりをする わからぬことを人にたずねる	相手の話をよく聞き、相手に分かるように話す 内容に応じたことばのやりとりをする わからぬことを人にたずねる	知ることを楽しむ ことばで聞いたことを想像する 物事の不思議や美しさ、性質・量・形等を感じる 自分では通うなものの思いに気づく 自分の考えや思いをことばで表現する	ことばに興味を持って考える	ことばのおもしろさを楽しむ ことばのもつリズムや面白さや美しさを感じ、友だちと呼吸をあわせる							
幼稚園後期 1～2年	幼稚園後期 1～2年	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く	話されたことの意味を考えながら最後まで聞く
3～4年	3～4年	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く	話の中心を考えながら聞く
小5年～中1年	小5年～中1年	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する	相手の話を聞きながら自分の考えを整理する
中学2～3年	中学2～3年	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える

ことばの力		他者と関わり、伝え合いを深める				ことばで考える				ことばを楽しむ				
学年	学習目標	意図	主眼	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点	留意点
小学校前期	小学校前期	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える
中学校前期	中学校前期	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える	相手の話を聞きながら自分の考えを整理し、相手に伝える

重復生活	声で伝えよう、聞くのがめう	絵や文字で表す、伝える	黙って楽しむ	文字	ソニー・ルースキル
3 4 5 接続前期 青箱生活	自分の考えや思いをこぼして表現する とちがちなアイデアを出し合いながら遊びを享受させる わからぬことを人にたずねる	体験したことを再現する 生活の中で必要に応じて書いて伝える	絵本やお話を楽しむ	身の回りの文字に親しむ	気持ちと身体 の調和 がとれる
接続中後期 1~2年	気持よくこぼすや交換 順序や簡単なわけを伝える	見たこと、気づいたことを、書いて伝えることを楽しむ	絵本など易しい読み物 を中心に、 本に親しむ をもつ	文字の音 や読み方、 仮の方を知り、 正しく身につける	自分の気持 ちを伝えら れる。あひ つを交換 せる。
3~4年	場に応じて話 し方を考える 受け入れる	様子や状況がわか るよう、 具体的に 記す	身近に本を 身近に本を 身近に本を 身近に本を	いろいろな 文字や漢 字を知り、 意味を考 えて適切 に使う	他の気持 ちを伝え る。まわり と協調して 対応でき る。
青箱生活・青箱文化	相手の話を きかせる 受け入れる	自分の思 いや考えを 並べて書く	知識や考 えを目的 的に書く	文字や漢 字の由来 や特徴な どを知り、 漢字の 意味を考 えて適切 に使う	立身や相 手を相手 と見なし ながら、 行動を調 整する
小5年~中年	相手の話を きかせる 受け入れる	目的や用 意に応じて 書く	目的や用 意に応じて 書く	文字や漢 字の由来 や特徴な どを知り、 漢字の 意味を考 えて適切 に使う	立身や相 手を相手 と見なし ながら、 行動を調 整する
中学2~3年	相手の話を きかせる 受け入れる	目的や用 意に応じて 書く	目的や用 意に応じて 書く	文字や漢 字の由来 や特徴な どを知り、 漢字の 意味を考 えて適切 に使う	立身や相 手を相手 と見なし ながら、 行動を調 整する

重復生活	声で伝えよう、聞くのがめう	絵や文字で表す、伝える	黙って楽しむ	文字	ソニー・ルースキル
小学接続前期	自分の考えや思いをこぼして表現する とちがちなアイデアを出し合いながら遊びを享受させる わからぬことを人にたずねる	体験したことを再現する 生活の中で必要に応じて書いて伝える	絵本やお話を楽しむ	身の回りの文字に親しむ	気持ちと身体 の調和 がとれる
小学接続中後期	気持よくこぼすや交換 順序や簡単なわけを伝える	見たこと、気づいたことを、書いて伝えることを楽しむ	絵本など易しい読み物 を中心に、 本に親しむ をもつ	文字の音 や読み方、 仮の方を知り、 正しく身につける	自分の気持 ちを伝えら れる。あひ つを交換 せる。
小学3~4年	場に応じて話 し方を考える 受け入れる	様子や状況がわか るよう、 具体的に 記す	身近に本を 身近に本を 身近に本を 身近に本を	いろいろな 文字や漢 字を知り、 意味を考 えて適切 に使う	他の気持 ちを伝え る。まわり と協調して 対応でき る。
小学青箱生活・青箱文化	相手の話を きかせる 受け入れる	自分の思 いや考えを 並べて書く	知識や考 えを目的 的に書く	文字や漢 字の由来 や特徴な どを知り、 漢字の 意味を考 えて適切 に使う	立身や相 手を相手 と見なし ながら、 行動を調 整する
小学小5年~中年	相手の話を きかせる 受け入れる	目的や用 意に応じて 書く	目的や用 意に応じて 書く	文字や漢 字の由来 や特徴な どを知り、 漢字の 意味を考 えて適切 に使う	立身や相 手を相手 と見なし ながら、 行動を調 整する
小学中学2~3年	相手の話を きかせる 受け入れる	目的や用 意に応じて 書く	目的や用 意に応じて 書く	文字や漢 字の由来 や特徴な どを知り、 漢字の 意味を考 えて適切 に使う	立身や相 手を相手 と見なし ながら、 行動を調 整する

中学校外国語(英語)科 学びの概要

中学校 外国語 (英語)科	実践的コミュニケーション能力の基礎を養う				言語や文化にたいする理解を深める			
	外国語に慣れ親しみコミュニケーションを図る				言語知識・言語文化			
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける	・話し手の意向などを理解する ・書き手の意向などを理解する	・自分の考えなどを話す ・自分の考えなどを書く	外国語(英語)を通して、言葉のルールや働き、また、言葉の果たす役割を考える 【ことばと思考】	多様なものの見方考え方を理解し、それらを尊重する態度を身につける				
・言語材料について練習する ・具体的な場面や状況に合った表現で言語活動を行う	<聞くこと> ①②③④ ・基本的な音声の特徴をとらえる ・具体的な内容や大切な部分を聞き取る ・質問や依頼などに応じる ・聞き返す	<読むこと> ⑥⑦⑧⑨⑩ ・文字や符号を識別する ・黙読や音読をする ・あらすじや要点を読み取る ・伝言や手紙での対応をする	<話すこと> ①②③④ ・基本的な音声の特徴に慣れる ・自分の考えや気持ちを話す ・問答したり意見を述べ合う ・つなぎ言葉を用いる	<書くこと> ⑥⑦⑧⑨⑩ ・語と語の区切りなどに注意して書く ・メモをとったり感想や意見を書く ・自分の考えや気持ちを書く ・伝言、手紙を書く	・言語材料(言葉のルールや知識)を理解する ⑮ * 音声のルール * 文法のルール * 文字や符号のルール * 語や表現の知識(900語) ★一般動詞とbe動詞 ★名詞の単数形・複数形、冠詞 ★疑問詞で始まる疑問文 ★現在進行形 ★助動詞can ★一般動詞の過去形 ●be動詞の過去形 ●There is(are)~の文 ●未来形 ●助動詞(will, shall, may, must, have to) ●SVC, SVOOの文 ●不定詞、動名詞 ●比較 ●受身形 ●接続詞(that, when, if, because) ◆現在完了形 ◆SVOCの文 ◆不定詞(SVO+不定詞、疑問詞+不定詞、It~to...) ◆形容詞的用法の現在分詞、過去分詞 ◆関係代名詞(who,	・日本語以外の言語の1つとして外国語(英語)を楽しむ ・外国語(英語)を知ることが契機にして、日本語を含む言語を相対化できる ・外国語(英語)を通して、世界のいろいろな人間や生活や文化を知る。 ・言語と文化の密接な関係を知る ⑯ ★文化によるジェスチャーの違いを知る(7) ★時差について知る(8) ●色のイメージの違いを知る(3) ◆習慣(風呂の入り方)の違い(3) ◆異文化(インド、ペルー)理解(4) ◆英語のことわざ ★◆◆英語の歌		
★挨拶と日常会話 ★ファーストフード店で ●天気予報 ●買い物 ●道を尋ねる ●電話での応答 ◆体調について ◆切符の買い方 ◆路線の乗り換え	★電話番号を聞く(1) ●機内放送を聞く(4) ●スピーチを聞く、読む ◆英語の聞き違い(3)	★インターネットで外国について知る(6) ★物語を読む(Reading) ●伝記を読む(11) ●物語を読む(Reading) ◆インターネットで検索(1) ◆伝記を読む(6) ◆新聞記事を読む(7) ◆名作を読む(8)	★自分の持ち物について(2) ★家族を紹介する(3) ★自己紹介する(4) ★友だちを紹介する(5) ★一週間の予定(6) ★電話をかける(8) ●過去の出来事を伝える(1) ●過去の状態や気持ちを伝える、尋ねる(2) ●天気を表す(3) ●未来のことを述べる、尋ねる(4) ●レストランで注文する(5) ●入国カードを記入する(4) ◆メールを打つ(4)	★手紙を書く(11) ●過去の出来事を伝える(1) ●過去の状態や気持ちを伝える、尋ねる(2) ●天気を表す(3) ●未来のことを述べる、尋ねる(4) ●入国カードを記入する(4) ◆メールを打つ(4)				

<ことばの力>

保育園・幼稚園 「協働して学びを生み出す子ども」の資質・能力	他者と関わり、伝え合い協働する				言葉で感じる想像する				言葉で考える				言葉を楽しむ									
小学校低学年 小5年 ~中学1年 中学2~3年	聴取	応答	主張	発表	調整	感受	想像	共感	批判	関係把握・分析			調和	創作	ユーモア	機転						
	聴取	読み解く	応答	主張	説得	発表	論述	見通す	調整	感受	想像	共感	転換	批判	論理	比較	分類	再構成	調和	創作	ユーモア	機転

<言語生活>

言語生活	声で伝え合う、関わり合う				絵や文字で表す、伝える				読んで楽しむ				文字				ソーシャルスキル
保育園・幼稚園	挨拶言葉遣い	対話	スピーチ	プレゼンテーション	記録メモ	絵便り	作文		読書				文字	書写	文法		ソーシャルスキル
小学校低学年	①挨拶言葉遣い	②対話	③スピーチ	④プレゼンテーション	⑥記録メモ	⑦手紙	⑧レポート	⑨意見文感想文	⑩メディア	⑪読書	⑫古典		⑬漢字	⑭書写	⑮文法		⑯ソーシャルスキル

(注) ★は1年生、●は2年生、◆は3年生を表す。(1)は教科書Lesson 1を表す。
 <例> ★電話番号(1)は、電話番号が1年生の教科書Lesson 1で扱われていることを表す。
 外国語(英語)科の表中の①②③…は、国語科<言語生活>に於ける①②③…との関連があることを示す。

「価値判断力」と「意思決定力」を育む市民・社会科の『学びの概要』

価値判断力と意思決定力				
	価値判断	調査・コミュニケーション	社会的な論争問題における意思決定	歴史的な見方・考え方
小3・4	<ul style="list-style-type: none"> ○健康と安全 ○福祉と健康 ○地域の開発 ○変化への気づき ○古いものの良さ ○人の働き・思い・願い ○異なる生活習慣や価値観 ○環境と消費活動 ○社会を見る3つの目 	<p>《調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○概念図、写真資料、聞き取り調査などから事象の特徴を読みとる。 <p>《コミュニケーション》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○討論の楽しさを身体で感じる。 ○自分と同じ考え方、違う考え方があることに気づき、お互いに認めようとする態度が大切なことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○論題について具体的なプランを考え意見を交換する。(以下は具体例・みんなが喜ぶ公園を作ろう・大塚の町にお客さんがたくさん入るスーパーを作ろう・もしも、お茶小が火事になったら・あと30年で埋立地がなくなってしまう。東京をごみの山から救うにはどうしたらいいだろう。他県の友達に東京らしいところベスト3を紹介しよう) ○それぞれの立場の考え方の長所と短所を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この60年くらいの間に人々のくらしは大きく変化したことや、変化には大きな契機があること。 ○人々の生活を豊かにするために、努力してきた先人の働きがあること。【変化への気づき】 【古いものの良さ】 【人物の働き・思い・願い】
小5	<ul style="list-style-type: none"> ○環境保全か開発優先か ○自国の産業育成か国際協調か ○先端技術と伝統的な技術 ○環境への適応 ○異なる生活習慣や価値観 ○情報の働き ○変化への気づき ○社会を見る3つの目 	<p>《調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図、概念図から読みとったことを生かす。 ○グラフなどの統計資料から変化を読みとり、他の資料と比較関連づけることによって、変化の契機を考える。 <p>《コミュニケーション》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の主張が、現在・未来の国民生活や政治や国際社会や人々の生活にどのような影響を与えるのかを考慮する。 ○相手の主張の内容や根拠を理解し、様々な立場から判断しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2つの立場から、自分の考えを筋道を立てて考える。 ○それぞれの考えの長所と短所を考えながら報告を聞こうとする。 ○具体的な地域活性化プランを考える(北海道、沖縄に新しい会社をつくろう。世界遺産をあとひとつ登録するなら) 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業における生産量や金額、貿易量や金額、産業の従事者数は年々変化していることや、変化には契機があること。【変化への気づき】
小6	<ul style="list-style-type: none"> ○相互依存 ○人の決断、願い ○環境保全と開発 ○環境への適応 ○基本的人権、国民主権、平和主義 ○異なる生活習慣や価値観 ○社会を見る3つの目 	<p>《調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年表から時代の景観を読みとる。 ○人物の伝記やエピソードから願いを読みとる。 <p>《コミュニケーション》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の主張が、現在・未来の国民生活や政治や国際社会や人々の生活にどのような影響を与えるのかを予想しながら考える。 ○相手の主張の内容や根拠を理解し、様々な立場から判断し、より広い視野から考えるようにし、留保条件をだして解決策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2つまたは3つの立場から、自分の考えを筋道を立てて考える。 ○それぞれの立場の考え方の長所と短所を考える。 ○具体的な政策について、プランを考える。(明治政府が目指す未来の国の姿、国際援助のあり方を考える) 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の歴史において、生活の向上を望む人々の願いに応えるような人物の働きがあったという見方ができる。【人物の業績とエピソードから歴史的な景観を考える】 ○日本の歴史には、長い間アジアの国々の影響が大きかったこと。【相互依存】
中1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の価値・尊厳 ○環境の保全と経済発展 ○文化・伝統の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な統計や写真資料、地図を活用し、使用する。 ○視覚的な資料にまとめ表現する。 ○社会科学習と日常経験の関係を説明する。 ・統計から「豊かさ」を分析する ・体験と結びつけながら、身近な地域の問題点を分析する。 ・ルールについてどのような論点があるかを明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の者の主張や意見を理解し、様々な立場から判断しようとする。 ○社会の形成者としての態度を持ち、問題に関心をもって、意思決定しようとする。 「豊かさ」と何か ・「身近な地域」の問題点と解決策は何か ・自分の考えるルール案 <p>■社会への発信：身近な地域の問題点の改善案を自治体に送る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の年代編成の仕組みを理解し、時代の特色を歴史の大きな流れとしてとらえる。 ○古代から中世にかけての国際関係、特にアジアにおける交流や関係を考えながら、歴史的な事象をとらえる。
中2	<ul style="list-style-type: none"> ○人権 ○公正・公平 ○相互依存 ○相互理解・対等 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な資料を適切に選択し、データを位置づけ、組織する。 ○視覚的資料を効果的に作成し、使用する。 ○様々な出来事の解釈を説明する。 ○異なる意見をもとにさらに探求し、自分の意見を深める。 ・市民革命、日清戦争の様々な立場から検討する。 ・日本のエネルギーをめぐる問題点を分析する。世界の紛争について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題について多面的に考察し、複眼的思考にもとづき判断する。 ○社会の一員としての自覚をもって、意思決定を行う。 ・市民革命について評価する ・日清戦争開始時の日本の行動を選択する ・エネルギー問題解決策を選択する ・世界の紛争について評価する。 <p>■社会への発信：レポート集を作成し、インターネットなどで発信する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○時代背景や因果関係から歴史的な事象を多面的にとらえ、様々な立場から評価しあう。 ○国際的な視野の中で、日本や世界の国々の関係をとらえる。
中3	<ul style="list-style-type: none"> ○人権 ○社会正義 ○国際平和 ○権利と責任 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な資料の情報を分析し、吟味して適切に選択する。 ○各種省庁、団体の資料を加工し、適切にいかす。 ○調査・分析の妥当性を検討して、専門家の意見をきくなど、さらに探求する。 ・死刑制度についての論点を明確にする ・地域の問題の論点を明確にする ・紛争についての問題点を分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ○論争解決への建設的・平和的手段を発達させ、示す。 ○社会の一員として、自己の責任をふまえた意思決定を行う。 ・死刑制度の存続について選択する。 ・条例を作成する。 ・紛争の解決策 <p>■社会への発信：具体的な政策や社会的行動を立案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的事象と現代の問題を関連づける。 ○歴史的事象を、時代背景や因果関係から多面的にとらえ、様々な立場にたって評価する。

社会的事象をとらえる見方・考え方

地理的な見方・考え方	政治的な見方・考え方	経済的な見方・考え方	文化的な見方・考え方
<p>○私たちが生活する土地には、土地の高低があり、そこは様々な自然や土地利用があること。</p> <p>○人々はその土地の自然条件を生かして生活していること(檜原村、八丈島、23区内)【異なる生活習慣や価値観】</p> <p>○地域にある優れた自然や文化の価値について考える。</p> <p>○私たちのくらしは、日本各地や世界と結びついて成り立っている。</p>	<p>○健康、安全、福祉、環境など、人々の生活を豊かにする行政の働きがあること。【より安全な生活の優先順位を考える】</p> <p>○個人の利害と社会の利害は必ずしも一致しないことに気づき、解決策を見いだそうとする。【社会を見る3つの目】</p>	<p>○地域にある商店や工場では、信頼される生産品や商品が扱い、人々の生活に役立っていること。また、そのことが自分の住む地域の生活の維持に役立っていること。【地域の発展と生活】</p>	<p>○それぞれの土地には、その気候や生活に関係の深い文化があり、人々はそれを保護継承していること。【多様な生活習慣や価値観】</p>
<p>○農業生産や工業生産にはそれぞれにあった気候や地形があり、人々はそれらの自然条件を生かしていること。【環境への適応】</p> <p>○日本の国土には、地形や気候に特色があり、それぞれの地域ごとに、人々はそれらの自然条件に適用して生活していること。【環境への適応】</p>	<p>○様々な産業の発展を促すために、生産現場で従事する人々や様々な研究所、行政などが協力し合っていること。【相互依存】</p> <p>○様々な産業や行政は、その仕事の遂行に多くの情報を収集、分析し、仕事に生かしている。【情報の働き】</p> <p>○貿易において諸外国と摩擦が生じたときには、政府同士が調整する役割をおこなうこと。【相互依存】</p> <p>○3つの社会を見る目を持ち、私的な利益と公共の利益の食い違いを調整する仕組みがあるという見方をする。【社会を見る3つの目】</p>	<p>○消費活動、生産活動にはお金の流通の働きが重要であること。</p> <p>○産業や消費を支える貿易は、様々な国々との間で、豊かさや技術を交換し合っていること。【相互依存】</p>	<p>○沖縄や北海道には、独自の文化があり、長く受け継がれてきたが、中には消えゆくこともある。【多様な生活習慣や価値観】、【変化への気づき】</p> <p>○日本の国土には、豊かな自然が残っている地域があることや、その自然を残すために地域の人々や行政の努力があること。【環境保全か開発優先か】</p>
<p>○日本と、日本に関わりの深い国々同士は、相互に経済的、文化的に依存しあっていること。【相互依存】</p> <p>○人々はそれぞれの国土の自然条件に適応しながら生活していること。また、それらを生かして、様々な産業を興していること。【環境への適応】</p>	<p>○国の政治のあり方は、基本法である憲法によって定められ、基本的人権、国民主権、平和主義などの原則に基づいて政治がおこなわれていること。【基本的人権、国民主権、平和主義】</p> <p>○3つの社会を見る目を持ち、私的な利益と公共の利益の食い違いを調整する仕組みがあるという見方をする。【社会を見る3つの目】</p>	<p>○日本政府や地方公共団体は、個人や法人などからの税金収入によって、計画的に運営していること。</p> <p>○日本と関わりの深い国々には、経済的なつながり強い国があること。【相互依存】</p>	<p>○日本人と様々な国の人々とは、異なる生活様式や習慣、価値観を認め合っていくことが大切であるという見方。【多様な生活習慣や価値観】</p>
<p>○身近な地域の地理的な事象から特色や問題点を見だし、自然条件や社会条件と結びつける。</p>	<p>○日本の政治や社会の特色をとらえる。</p> <p>○政治における民衆の力をとらえる。</p>	<p>○経済的出来事の原因と影響をとらえる</p> <p>○身近な事例を通して、限られた資源の配分についての工夫をとらえる</p>	<p>○衣食住を中心とした伝統・文化などを通して、過去と現在における諸地域の文化の類似性と相違を考察する。</p>
<p>○地域における問題を、自然条件や社会条件から多面的に分析する。</p> <p>○貿易など、国際社会の相互依存システムをとらえる。</p>	<p>○日本の政治的、社会的特色の成り立ちや特色を世界的な視点からとらえる。</p> <p>○人権思想、立憲政治についてとらえる。</p>	<p>○様々な国の経済システムと、政治・社会問題への経済への影響を明らかにする。</p> <p>○先進国、開発途上国についてとらえる。</p>	<p>○世界的な文化の多様性を通して、文化の類似性と相違を考察し、異なる価値観に対して共感的な理解をもつ。</p>
<p>○環境問題や紛争等の地球規模の問題を、多面的に考察する。</p>	<p>○国内・国際的視点から、日本の政治的・社会的問題を明らかにする。</p> <p>○憲法の理念をとらえ、主権者として社会に参加する態度をもつ。</p>	<p>○国内、国際的視点から経済的問題の原因を分析する。</p> <p>○経済主体者として社会と関わる目で見直す。</p>	<p>○異なる価値観が共存する社会について考察する。</p>

8. 算数・数学 学びの概要

目標 体験や活動の中から数理的な課題を見つけ、それを通して算数・数学のこじばを通して考え、解決することによって知識・技能を身に付ける。
 ・自分の考え方や友だちの考え方を比べ、実践を通して確かめ、数学的な見方・考え方を広げる。
 ・学習が自らの生活に関連していることに気づき、進んで生かそうとする。
 ・学習したことをもとにして課題を発展させ、筋道を立てて粘り強く考える。

学年	数量関係				関わりあって学ぶ子どもの姿
	数・式と計算	量と測定	図形	関数	
小1 9月 12年	<p>数を理解する</p> <p>数をいろいろな形で理解する</p> <p>2. 数構成をいろいろなかたちで理解する</p> <p>数範囲の拡張に伴って十進数の理解の素地を培う</p> <p>計算の仕組みを理解する</p> <p>簡単な数の筆算形式による計算を理解する</p> <p>式を表す、読む</p> <p>式の意味を理解する</p> <p>式を用いて問題を解決する</p>	<p>比べる</p> <p>任意単位を基準に間接比較を理解する</p> <p>普遍単位を基にした数値化による比較を理解する</p>	<p>形を操作する</p> <p>色々な形（平面及び立体）に触れ形の特徴を実感する</p> <p>色々な形の特徴を生かして具体的なものを構成する</p> <p>色々な形の構成要素を意識する</p>	<p>数のかかわり</p> <p>計算のきままりを理解する</p> <p>数の関係を比べ、きままりを見つめる</p>	<p>資料の整理</p> <p>簡単な表、グラフの表し方を理解する</p> <p>絵や図やことば等を使って、自分の考えを友だちに伝える</p> <p>友だちの考えを聞き、解決の方法を理解する</p> <p>友だちとの解決の方法での意見交換を通して、新しい問題場面を考えることができる</p>
小3 4年	<p>数を使って考える</p> <p>数範囲を広げ、記数法に基づいた計算方法の理解</p> <p>式と演算決定</p> <p>式の意味を理解し、問題場面を読みとり、適切な演算を決定する</p> <p>数を広げる</p> <p>整数以外の数を知り、その仕組みを整数の範囲で理解する</p>	<p>測定と単位の意味を考える</p> <p>測定の原理をさまざまな量（長さ・かさ・重さ・時間・広さなど）において理解する</p> <p>測定器具を作り、測定に利用する</p>	<p>図形の部分に目を向ける</p> <p>平面図形を構成要素で見える</p> <p>定規や三角定規を用いて色々な形を作図する</p>	<p>図数の考え</p> <p>現象から2次元を取り出して、その関係を調べる</p> <p>式を操作して関係を考える</p>	<p>既習事項や日常生活、友だちの疑問等から自分なりの課題を持ち解決に取り組む</p> <p>自分の考えを図や式・ことばを使って友だちに分かりやすく伝える</p> <p>友だちの考えを図や式・ことばから理解し、自分の考えと似ている点や違っている点を明確にする</p> <p>学習したことと整理し合い、疑問やさらに知りたいたいことを出し合いながら新たな課題を見つめる</p>
小5 6年 9月	<p>数进行分析する</p> <p>数を合成、分解し、きままりをみつけることで数を多様にする</p> <p>加法・減法の意味を拡張する</p> <p>整数場面での演算の意味を小数・分数へ広げて理解する</p>	<p>広さの見方を広げる</p> <p>既習の面積の求め方を利用して他の形の面積の求め方を理解する</p> <p>2次元の広さの見方を3次元にも広げる</p>	<p>図形の見方を広げる</p> <p>成立条件に着目し、その図形の性質をみつけ利用する</p> <p>対称の見方を知り既習の図形の見方や生活に役立てる</p> <p>平面図形の見方を立体に広げる</p> <p>平面図形の見方を使い構成要素から立体を理解し、分類する</p> <p>平面の見方を立体に利用する</p>	<p>2量関係のきままりをみつける</p> <p>2量の関係を表や図・グラフに表し、きままりをみつけ、式に表し一般化する</p>	<p>課題に対し、自分で見通しを持ち自分なりの考えで解決し、図や式・ことばで説明する</p> <p>友だちの考えを図や式から理解し、自分のことばで説明する</p> <p>自分の考えと友だちの考えを比較し、共通点や相違点を見つめる</p> <p>出された様々な解決方法の中から、課題場面に適したよりよい方法を話し合いを</p>

6年10月	<p>乗法・除法の意味を拡張する 整数場面での演算の意味を小数・分数へ広げて理解する</p>	<p>単位を作る 2量の関係を表す数の意味を理解し、使うことができる</p>	<p>関数の表し方 平面図形に関する基本的な性質や用語・記号の意味を理解する</p>	<p>関数を式でとらえる 現象から2量を取り出し、その関係を調べ、比例・反比例の関係になっっていることを理解し、式のかたちで判断でき</p>	<p>通して選び出す 話し合いやまとめの学習を通して、さらに発展した学習や自分に対しての適切な課題をつかむ</p>
中1年7月	<p>数の拡張 負の数を知り、その仕組みを整数・分数・小数の見方、考え方を理解する</p>	<p>図形の性質 平面図形に関する基本的な性質や用語・記号の意味を理解する</p>	<p>図形の表し方 平面図形に関する基本的な性質や用語・記号の意味を理解する</p>	<p>関数を式でとらえる 現象から2量を取り出し、その関係を調べ、比例・反比例の関係になっっていることを理解し、式のかたちで判断でき</p>	<p>通して選び出す 話し合いやまとめの学習を通して、さらに発展した学習や自分に対しての適切な課題をつかむ</p>
中1年9月	<p>文字式の導入 文字式を活用でき、計算の対象とする</p>	<p>文字式を用いた図形の計量 公式を文字を用いて表し、利用する</p>	<p>図形の表し方 平面図形に関する基本的な性質や用語・記号の意味を理解する</p>	<p>関数を式でとらえる 現象から2量を取り出し、その関係を調べ、比例・反比例の関係になっっていることを理解し、式のかたちで判断でき</p>	<p>通して選び出す 話し合いやまとめの学習を通して、さらに発展した学習や自分に対しての適切な課題をつかむ</p>
中2～3年	<p>文字式の計量 文字式の計算を広げる</p> <p>方程式の計量 文字の種類を増やして方程式をたてやすくし、その解き方を理解する</p> <p>数の拡張 文字の次数が上がった方程式の解き方を理解する</p> <p>平方根の導入 平方根を知り、その仕組みを有理数の見方、考え方を理解する</p>	<p>図形の性質を論理的に考察する 証明の意味を理解し、定義や図形の基本的性質を証明のよりどころに用いることを理解する</p> <p>図形の性質などを考察して論理的思考力を伸ばす 平行四辺形などの具体的な図形の性質を理解し、それらの性質を利用して論理的思考力を伸ばす</p> <p>三平方の定理の美しさと重要性を味わう 三平方の定理を理解し、三平方の定理の回りに応用する</p> <p>三平方の定理の重要性を理解する</p>	<p>図形の性質を論理的に考察する 証明の意味を理解し、定義や図形の基本的性質を証明のよりどころに用いることを理解する</p> <p>図形の性質などを考察して論理的思考力を伸ばす 平行四辺形などの具体的な図形の性質を理解し、それらの性質を利用して論理的思考力を伸ばす</p> <p>三平方の定理の美しさと重要性を味わう 三平方の定理を理解し、三平方の定理の回りに応用する</p> <p>三平方の定理の重要性を理解する</p>	<p>関数の考えを広げる 現象から2量を取り出し、その関係を調べ、比例・反比例の関係になっっていることを理解する</p> <p>関数の考えを広げる 現象から2量を取り出し、その関係を調べ、比例・反比例の関係になっっていることを理解する</p>	<p>数や図形についての証明の道筋を明らかにしながら、わかりやすく説明する</p> <p>友だちの考えを聞いて理解し、自分の考えと比較する</p> <p>学習したことを整理し合い、疑問やさらに知りたいたいことを出し合いながら新たな課題をみつめる</p> <p>友だちの考えに納得がいかなかったとき、根拠を挙げて反論する</p> <p>出された様々な解決方法のそれぞれのよさを理解する</p> <p>数学的な活動などにおいて問題の解決やまとめにお互いに協力し合う</p> <p>話し合いやまとめの学習を通して、さらに発展した学習や自分に対しての適切な課題をつかむ</p>

自然・理科「新・お茶の水プラン」～「学びの概要」改題～

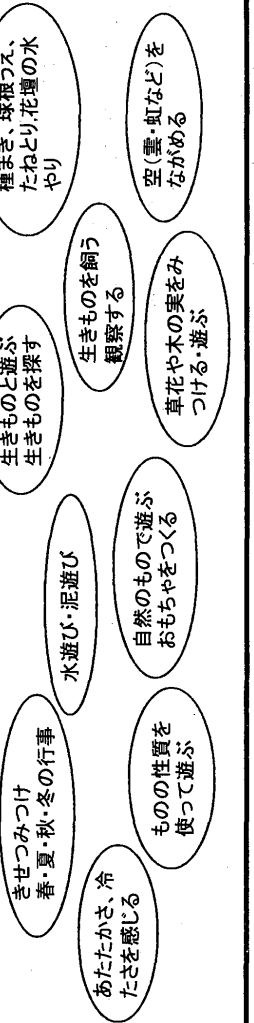
より良い未来のために主体的に考え、科学的根拠を持って判断行動ができる。
 探究の技能を磨き、自然の普遍性と巧みさを感じとる。
 自然の事物現象を謙虚に受け止め、事実から学ぼうとする。

探究の柱

人目	自然と向き合う視点	究める姿勢	関わり合う姿
小1・2	出あう 興味関心をもつ 「不思議だな」と思う 見えるものに関心を持つ 身体感覚で自然を感じる 命の尊さを知る	見る、さわる、感じる あそぶ、発見する 身体感覚で感じる 試してみる 観察して気づく、比べる、なかにま分けする	見る、まねる、伝える 教え合う、見合う 発見を見せ合う 友だちの発見と比べる 発見したことを絵や文で伝える 友だちの表現のよさに気づき、取り入れる
小3・4	自分の身体感覚から普通単位への切り替え ものを物質でとらえる 現象の原因を考えようとする 見えないものを説明しようとする 予想を立てる 問いをもつ 結果から推論する 自分中心の座標から絶対的座標への切り換え	自分の身体感覚を通して特徴や違いに気づく 温度計やはかりなどの計測器を用いて測定する 集めたり比べたりしてものの性質を調べる 道具を使ったり計測の方法を知り、定量的に調べる 継続観察、詳しく観察 観察から自然界のしくみを知る 調べた結果を表やグラフで表す 科学の進歩が生活に生かされていることを知る	発見を見せ合う、疑問を伝え合う 考えを発表し合う 協力して実験に取り組む 実験結果を共有する 友だちの考えを聞き、自分の考えと比べる 友だちや先生のわかりやすく伝えるために絵や図で表現する 結果から推論したことを話し合う 科学と自分たちの生活を話し合う 実験方法や観測データを共有する 実験結果を共有し、規則性を導き出す 検証方法や考察方法を話し合う 小グループで意見を話し合いながら解決方法を決めて実験友だちと一緒に疑問に答えた理由を考えたりする
小5	変化の要因や規則性を考える マクロな目で見える 関係を考える 規則性で自然の現象を捉え 見えないものの存在を想像して考える	継続して観測する 見通しを持って実験する 分析的に調べる(条件制御) 条件を変えて対照実験する 自分で情報を収集し分析する	つり合いのさまり この原理 ふりこの等時性 2つの物体の衝突の観察 重さや速さを変えた衝突実験

内容の柱

素地となる活動内容例



エネルギー (普遍性)	物質	生命	地球(巧みさを学ぶ)
加熱や冷却による物質の状態変化 温度と固体、液体、気体の状態変化 暖かさや温度 磁石や電気の性質 金属や鉄などの物質の特性と分類 空気の弾性や膨張による体積変化	水に溶かすと見えなくなる 固体、液体、気体の状態を観察する 水の温度変化を測定し、グラフにする	生物の体のつくり 生物のいさる環境(えさやすみか) 季節による生物や環境の違い	太陽と地面の様子との関係 地面の様子と比較より見いだす 自然界の水の循環 太陽の動きと影の向き 半月や満月の動き 毎日の月の変化の観察
電気エネルギーの利用(光、熱、音、動力) 音、光、太陽の熱のエネルギーの生活への利用や道具	水に溶けても無くならない どれだけ溶けるか試してみる 溶けるようすを観察する 溶ける量には限度があることを知る 温めると溶けやすい	条件を変えて比べる(発芽実験) 動物の誕生 生物のはたらき 生物どうしの関係 生物とそ環境	天気の変化と予想 天気と気温 秋の天気(台風など) 太陽の位置と日かげ

<p>6</p> <p>モデルで考える</p> <p>科学の成果と生活を結びつける</p> <p>理想通りにはいかない(誤差)</p> <p>仮説を立てる</p> <p>粒子などのモデルで考える</p> <p>エネルギーと結びつける</p> <p>演繹的に考える</p> <p>記号であらわす</p> <p>粒の動きとエネルギーを結びつけて考える</p> <p>原子・分子・イオン(電子)で考える</p>	<p>結果をグラフで定量的に表す</p> <p>記録方法の工夫</p> <p>実験観察・観測以外の補助的資料の活用</p>	<p>科学と環境やエネルギーの関係について話し合う</p>	<p>電磁石とモーターのしくみの関係</p> <p>電気のエネルギーから熱、光、音、力学的運動などへの関係</p>	<p>空気のはたらきを知る</p> <p>ろうそくの燃焼と空気</p> <p>酸素、二酸化炭素の性質調べ</p> <p>酸性、中性、アルカリ性に分類</p> <p>身近な水調べ</p> <p>③水の状態変化</p> <p>水の状態変化を粒で説明する</p> <p>⑤粒の正体</p> <p>粒から原子、分子へ</p> <p>元素や密度から物質を分類する</p> <p>気体を原子、分子で考える</p> <p>粒からイオンへ</p> <p>電解質、非電解質とイオン</p>	<p>①植物</p> <p>身近な植物調べ</p> <p>花・根・茎・葉のはたらき</p> <p>植物の分類と環境</p>	<p>星の動き(日周運動のみ)</p> <p>流水のはたらき</p> <p>火山、地震</p> <p>災害と防ぎ工夫</p> <p>④気象</p> <p>水の状態変化(物質分野)</p> <p>空気中の水の変化と循環</p> <p>気象観測</p> <p>天気の変化</p> <p>四季の変化と気象</p>	
<p>中 1</p>	<p>対照実験により結果を比較する</p> <p>実験値と誤差</p> <p>グラフにして考察する</p> <p>実験値を操作し資料と照らし合わせて推論する</p> <p>個別実験を科学的に計画し試してみる</p>	<p>考えを出し合い深め合う</p> <p>実験結果を用いて、自分の推論についての証拠や根拠を説明する</p>	<p>力とバネの伸び</p> <p>熱と力を表す～数量化</p> <p>熱の発散や摩擦</p> <p>熱の正体～分子運動</p> <p>力の矢印</p>	<p>②熱と力</p> <p>中和の仕組みとイオン</p>	<p>⑧動物</p> <p>動物の生活</p> <p>動物のからだのつくり</p> <p>動物のからだのはたらき</p> <p>動物の分類と環境</p>	<p>⑨地層と地球の歴史</p> <p>水のはたらきと地層</p> <p>地球の歴史・地質年代・地球環境と植物や動物の進化</p> <p>火山、地震、地球の構造</p> <p>星空観察(林間、冬休み)</p>	
<p>中 2</p>	<p>資料と照らして実物を観察する</p> <p>班別実験を計画し試行錯誤して追究する</p> <p>観察し過去のできごとを推測する</p>	<p>論理的に説明し議論し合う</p> <p>友だちに自分の考えや科学の法則をわかるように説明する</p>	<p>⑥電流と磁界</p> <p>電流・電圧と抵抗</p> <p>電流による熱の発生</p> <p>電力量</p> <p>電流と磁界</p> <p>電流の正体と電子</p> <p>⑦光と音</p>	<p>⑩化学変化と原子・分子、エネルギー</p> <p>化学変化と原子・分子の結びつき</p> <p>化学変化のきままりを導く</p> <p>酸化、還元とエネルギーの関係</p> <p>化学変化でエネルギーを取り出す</p>	<p>⑩地球と宇宙</p> <p>天体の日周運動と年周運動</p> <p>四季の変化と太陽</p> <p>惑星と恒星(色・温度)</p> <p>月・内惑星・外惑星の見え方</p> <p>太陽系・銀河系</p>	<p>⑪力とエネルギー</p> <p>力と運動、仕事</p> <p>エネルギーの種類と変換</p> <p>エネルギーの保存</p> <p>科学技術と人間</p>	
<p>中 3</p>	<p>測定値を目的に合わせて操作し考察する</p> <p>パイオテックロロジーを活用した実験に触れる</p> <p>多くの資料を調査する</p> <p>蓄積した観測記録を活用する</p> <p>多くの情報をもとにイメージをふくらませる</p>	<p>エネルギーや環境と自らの生き方について話し合う</p> <p>リスク評価・リスク判断、合意形成を試みる</p>	<p>⑪力とエネルギー</p> <p>力と運動、仕事</p> <p>エネルギーの種類と変換</p> <p>エネルギーの保存</p> <p>科学技術と人間</p>	<p>⑩化学変化と原子・分子、エネルギー</p> <p>化学変化と原子・分子の結びつき</p> <p>化学変化のきままりを導く</p> <p>酸化、還元とエネルギーの関係</p> <p>化学変化でエネルギーを取り出す</p>	<p>⑫生物のつながり</p> <p>生物の細胞と成長</p> <p>生物の殖え方</p> <p>生物の世界のつながりと物質、エネルギー</p> <p>自然と人間の共生</p> <p>自然と人間</p>	<p>⑩地球と宇宙</p> <p>天体の日周運動と年周運動</p> <p>四季の変化と太陽</p> <p>惑星と恒星(色・温度)</p> <p>月・内惑星・外惑星の見え方</p> <p>太陽系・銀河系</p>	<p>⑪力とエネルギー</p> <p>力と運動、仕事</p> <p>エネルギーの種類と変換</p> <p>エネルギーの保存</p> <p>科学技術と人間</p>

(音楽科の目標) 音楽を通して豊かな表現者を育む

- ・からだ丸ごとで音を感じ、受けとめる感覚を育てる
- ・作品や演奏者と関わり、自分なりに楽しむ態度を養う。
- ・多様な音楽を仲間と共有する中で、互いの音楽世界を広げ、より豊かな響きを味わう。

学年	聴きあって		響きあって			理解して
	からだで感じる	聴く 受けとめる	歌う	楽器で演奏する	つくる	
1年2学期から 低学年	多様な音色に関心をもつ 歌いながら身体で オスティナートを表す トーンチャイムを用いた	拍を感じる 友達の歌に耳を傾ける 聞こえた音程を再現する 音のしりとり	わらべうたであそぶ レパートリーをふやす 唱歌(しょうが)を歌う 声を合わせて歌う	簡単な打楽器を用いる 歌にドローンや オスティナートを加える 和楽器に触れる 締太鼓に触れる	思いつきを楽しむ かえうたを楽しむ オスティナートを考える	簡単な受け答え(模倣) 楽譜をながめる 簡単なリズム譜の応答 リズム譜を読む 楽譜の歌詞を追う 2, 3音の高低譜を読む
中学年	唱歌に合わせて 身体で表す 身体で和楽器の 響きを感じる ことばと音の つながりを感じる ストーリーに合わせて 動きを考える 踊る	互いの声を聴き合う 曲の流れを感じる ソプラノの響きを感じる 多様な表現を 合わせて感じる 色々な楽器の響きを 受けとめる 声の違いを感じる	簡単なカノンで歌う のびのびした声で歌う 響きを感じて歌う 曲の流れを感じて歌う 2部合唱を楽しむ	江戸囃子の基本 締太鼓、桶胴太鼓、篠笛 ソプラノリコーダー に触れる 歌うように吹く ラテン楽器 に触れる 木琴や鉄琴 を楽しむ 響きを合わせて演奏する ペルやトーンチャイム の 響きを楽しむ 大太鼓 + 箏 の 響きを楽しむ	友達の作品に触発され 即興表現を楽しむ マウスピースで遊ぶ お話と音楽を合わせる イメージを曲に表す 幾つかの約束をふまえた 作品づくり	唱歌(しょうが)をあわせる 簡単な五線譜を読む ラテンのリズムを理解する 多様な記譜法を知る 楽器による演奏の仕方を知る
高学年	合わせる喜びを からだで感じる それぞれの息を感じる	それぞれの工夫を 感じ取る 各パートの響きを聴きながら 自分の内なる声に耳を澄ます	ア・カペラの響きを 楽しむ 3部合唱 好きな曲を多様な表現媒 体・手段で表現する 大編成の合唱を 心を合わせて表現する	アルトリコーダー の導入 三線など多様な楽器に 触れる テナー&バスリコーダー の導入 響きの豊かさを感じる 大編成の合奏 自分の役割を意識して一つの作品 をつくり上げる	ミュージカルや 音楽物語をつくる 場面の音楽や 効果音作り 好きな曲を工夫して アレンジする	作品の組み立てを 工夫する 日本の音楽や外国の 多様な音楽世界を知る 作品の構成を理解し、 協力してつくりあげる
接続前期 6年3学期	仲間とともに響きを合わせる喜びを感じる 他者が伝えようとする表現をからだで受けとめる		自分たちで選んだ曲を、好きな方法で、仲間と工夫して演奏する 自由なアンサンブル			他者の演奏のよさに気づく (方法、楽器の編成、技能など)
接続中 後期一 中1年 前期まで	音の動き方の特徴を捉える	みんなでワツと歌う	アルトリコーダー	アルトリコーダーによる聴き取り問題	音楽について説明する語彙 (音高、リズム、テンポ等) 変声について 合唱の組み立て	
中1年後 から	和音の響き	ベース音の響き	自分達のイメージを生かして愛好曲を広げる 卒業式の全校合唱	アルトリコーダーアンサンブル 三味線ワークショップ	簡単な和音伴奏づくり 長調の音階の構造 コードネームの理解 日本の音楽 三味線音楽 三味線の構造 伴奏のパターン	
中2年前 から	和音の響きに包まれる 音楽のノリを捉えて表現する	伴奏の響きを感じながら歌う	アルトリコーダーを中心とした アンサンブル	コードネームによる 伴奏づくり (合唱の編曲)	合唱の効果的な練習 合唱表現の工夫の仕方	
中2年後 から	ベース音やドラムのリズム の特徴を体で表現する	音の鳴り響き方や音色の 変化を深く聴き取り感じ取る	自分達のイメージを生かして愛好曲を広げる 卒業式の全校合唱	三味線ワークショップ (有志による合奏参加)	時間軸に沿って各パートの 動き方を図で表し、楽曲全体の 構造をグラフィカルに表現	
中3年	音楽プロデュース活動 生徒自身が、自分の一歩望む形で「音楽活動の場」を実現させる。自分自身で感じ取り考えたことを実現させることにより、お互いに学校全体の音楽活動を活性化させることへ貢献し合う。		クラス単位の混声合唱 卒業式の全校合唱	自分でリコーダーの種類を選び、伴奏に合わせて楽曲表現として完成させる	音楽プロデュース活動 音楽番組制作 コンピュータによる編曲 (合唱の編曲) 音楽環境改善 (音が人に与える影響)	
	自分自身の深い聴き取りから 楽曲の構造を分析する					

協働して学ぶポイント		多様な表現が行き交う場（環境）の設定	
主体的に学ぶ(聴く・選ぶ・見通す)	他者と関わりあう (共感・批判・評価)	お互いに表現する・聴きあう場	
<p>自分なりに興味を持つ あそびのルールを知り、守る 自分の好きな曲を選ぶ ともだちの行動をからだで感じる こだわる 自分の考えを表そうとする 友達の表現を受けとめようとする</p> <p>活動の見通しをもつ 計画を立てる</p> <p>他者の意見を受けとめる 自分の意見を述べる 友達の表現から学ぶ 自分の表現したいことに責任を持って主張する 自分の発表を振り返る</p> <p>他者の意見を取り入れる いいところを自分の表現に生かそうとする 自分なりに見通しをもって学習を進める</p> <p>新たな表現欲求を持つ よりよい計画を立て実行する</p>	<p>まねる (いいな・おもしろそう) 一緒にあそぶ楽しさを味わう</p> <p>仲間と協力して「あそぶ」 折りあいをつける 友達の意外な面を「発見する」 なるほど・あれ?</p> <p>仲間と話し合って 「計画を立てて進める」</p> <p>「聴きあう」</p> <p>互いの表現を「受けとめあう」</p> <p>互いの表現を評価しあう</p> <p>違いを尊重する</p> <p>互いに工夫し、 よりよい表現を探求する</p> <p>違いを認め、共感的に聴きあう 話し合える</p>	<p>「わらべうた・音楽あそび」 (一・二年)</p> <p>「リクエストによる歌唱(一〜三年)」</p> <p>「好きな子が集まって開くミニコンサート」 (中高生や先生も参加)</p> <p>「ミュージックプランに基づく学習」 (四〜六年)</p> <p>「全員で聴きあう・発表しあう全校音楽会」 (一〜六年)</p>	<p>本ものとの出会い (H17, 18年度の例)</p> <p>ロバの音楽座コンサート (古楽器・手作り楽器) 小1・2 H18年</p> <p>江戸ばやし、獅子舞 (若山社中) 小2・3 H17年</p> <p>ペピシュタインコンサート (ピアノデュオ・マリンバ ピアノ・チェロ) 小1〜6 H17年</p> <p>能楽小鼓 H17/18年 文楽人形ワークショップ 小2〜6 希望者</p> <p>五嶋みどり・及川浩二 レクチャーコンサート (ヴァイオリン・ピアノ) 小5, 6 H17年</p> <p>雅楽コンサート (笙、ひちりき、龍笛) 小5, 6 H17年</p> <p>歌舞伎鑑賞 (楽器の説明) 小6希望者 H18</p> <p>創立130周年記念音楽会 (歌・ピアノ・合唱・合奏) 幼・小6・中2・高校・大・院 H17年</p>
条件に適した歌を選べる	歌う歌について、根拠を出し合って話し合える	のどみ話しうなで合視点歌う	愛好曲 クラス合唱 合唱祭
クラス合唱曲の 選曲・編曲・練習・準備等			
知識の学び方 音楽をイメージしながら知識を学ぶ	学び合う仲間づくり 互いに聴き合う 計画的組織的な活動	「フルトン・小エクス・グルー」	愛好曲 音楽プロデュース活動による音楽会開催 合唱祭
伴奏パターンの組み合わせによる 演奏効果を理解して工夫する		「的位クラの練習体単」	愛好曲 音楽プロデュース活動による音楽会開催 合唱祭
クラス合唱曲の 主体的な選曲・編曲・練習・準備等			
主体的に音楽活動の場をつくり出す			
音楽会企画運営 (様々な環境に合わせて)	音楽行事企画運営 (テーマの設定と大集団による表現を組織)		音楽プロデュース活動 「単位的な練習」 クラス合唱 全校合唱 の組織化
クラス合唱曲の 主体的な選曲・編曲・練習・準備等			音楽プロデュース活動による音楽会開催 合唱祭

		生き方（生活）を豊かに		
		つくる喜び		
		他者を意識して	対象 — 自分に向き合う	
中学年		他者のことを知ろうとする ・ 自他に向かい合う「自己他己紹介ボックス」「ハートビートドロ잉」 ・ 他者の表現にコメントする 生活を楽しくしようとする ・ 行事を盛り上げる飾りづくり（音楽会・運動会）〔共同制作〕	想いを表現しようとする ・ 想いに向かい合う「卵の世界」 ・ 試行錯誤して想いを表す ・ 見えないものを表す「こころ模様」 特性を知って表現しようとする ・ 素材、場所等の特性を知って表す「生命を吹き込むアート」	よく見てはたら ・ さまざまな見 ・ 鑑賞遊び「見て感じたこ 見方を広げる ・ 美術館等で本 ・ アーティスト
	高学年	他者を意識して表現する ・ 他者が分かるように表す「絵しりとり絵で対話」 ・ 他者が使いやすいようにつくる ・ 他者をもてなす 生活を豊かにしようとする ・ 身の周りのアートを見つけ生活に取り入れる「アートレポート」	想いにこだわり、表現する ・ 想いを元によりよく表す ・ 自分らしさを探る「文字の結晶」抱負を表現 ・ 味わいを表現する「お茶会」数種類の紅茶を味わう 特性をいかして表現する ・ 素材、場所等の特性をいかして表す〔共同制作〕「高く高く 新聞紙を立ち上げる」	見方を深める ・ 美術作品を比 ・ 自分の表現を 見る楽しみを創り ・ 鑑賞から表現
小中接続期	前期 6年生9月～卒業	他者方を法意を識考して表現す ・ 他者と共に楽しむ表現〔共同制作〕「?のアートカード 神経衰弱ゲームづくり」 ・ 条件設定の中で共につくる〔共同制作〕「ストロー大作戦 包まれる形」 ・ 形や色をいかして表現する「色彩の学習」	対象 — 自分みなる迫力を高める ・ 対象を把握して表す「にぼしを描く 想像一本物」 ・ 自分らしさを追求する「体内浄化計画 一体内怪人を出す」 継続的に描くことに親しみ、みる力を身につ ・ 自然の美しさを感じ、自分らしく表す「植物スケッチ」 ・ 身近なものの形をとらえ、五感を意識して描く「みて描く」 特性をいかして自分なりに表現する ・ 技法の特性をいかして表す「凹凸ふえいす」フロクターージュ	・ 多様な美術作 対象をじっくりものに向き「もの」 自分なりの見 ・ 感性や想像力
	中期後期 ～中1・9月	見る人の気持ちを考え伝達、交流する ・ 文字のデザインを考える「名前のデザイン」 ・ 技法をいかして表す「オリジナル絵文字」レタリング	もの見方や考え方を深め創意工夫して表す ・ 様々な角度から見る・客観的に見る ・ 深く見てかかわる・光や影をとらえる ・ 立体感を捉えて表す（量感・塊感・動勢） ・ 平面空間を意識して描く「線の迷宮美術館」 ・ 遠近法透視法をいかして表す「透視図の世界」 自分の視点から発想する ・ 感性や想像力を働かせて構想を練る ・ 道筋を見通せる・計画性を持つ 創造的な構想を工夫する ・ 創意工夫して総合的にまとめあげる 自分だけの表現を追求する ・ 自分独自の発想や構想、表現方法を工夫する ・ 伝統的なものから新しいものを生み出す	自分なりの見 ・ 心情や意図、 ・ 感性や想像力 自分の価値意 ・ 伝統的な文化 ・ 洗練された美 ・ 美的判断力を ・ 表現の相違と ・ 生活の中の造
中学1年	使う人の気持ちを考え特性をいかして表現する ・ 素材をいかしてデザインする「オリジナル Wood パズル」 ・ デザインの性質を理解する「お茶中パンフレット」 ・ 他者の異質性をより意識した表現活動〔幼稚園とのコラボレーション〕「材料宅配便」	造形感覚を働かせて表現し、創意工夫してつくり生活を豊かにする ・ 用と美の調和を考え美意識をいかしてつくる「篆刻」 ・ 身近な環境や自然との共生を視点にデザイン 他者意識に基づく発想構想表現をし、交流する ・ 効果的な伝達手段で伝える ・ 提案、発表、批評し合いよさを認め学び合う		
中学2年				
中学3年				

学びの基盤

からだで感じて	はたらきかける	ふれる・聴く・みる・味わう・動く—止まる・這う・もぐる・くぐる・伸びる—縮む・歩く・走る・浸る・包まれる・覆われる	活動例 広い場で 狭い場で 学校内 公共の場 影で 光の中で 映像とともに まねして なりきって 変身して
	受けとめる	引く・支える・保つ・見立てる・削る・砕く・見通す・つける・整える 快—不快 大—小 多—少 多い—少ない 熱い—冷たい 固い—柔らかい 好き—嫌い・同質—異質・強い—弱い・良し—悪し・優—劣 楽しさ・面白さ・心地よさ・ぎこちなさ・しっくりくる・整然さ フィット感・落ち着く・ぎらつく・バランス・パターン・リズム・量感・塊感・動勢・部分と全体・創—写す・点—線・一—多	

い、豊かな表現者を育む

みる楽しみ
きかける 方に気づき、発見する まねしてポーズ!」「美術作品からお話づくり」等 とを伝え合う
物にふれる などに刺激を受ける
べて話し合う 「比べてみると」 神奈川沖波裏 vs 輸送船の難破 分かりやすく説明する「プレゼンテーション」
出す へ 「鳥獣人物戯画から絵巻物づくり」
品にふれる - 「オリジナルキャラクターの鑑賞」
ける
り観察する 合い、視点を変えて表現する みつめる」 ペンのコピーを使ったリーフレットづくり
方を広げる を働かせ美術作品を読みとる 「ブリューゲル『子どもの遊戯』を読み解く」
方を深める 表現の工夫を理解する を働かせて美術作品から物語をつくる 「ベラスケス『侍女たち』の世界」
識をもって批評し合う に関心を持ち、理解と愛情を深める 「印の歴史と美しさを考える」 篆刻の歴史 しさを感じとる 身につける 共通性に気づく 形、デザインの広がりを深く感じとる

協働して学びを生み出そうとする子どもの姿

低学年においては、ゆるやかな学習分野を形成するため、「なかま」の中のアートの活動として、他の学習分野とのつながりを重視しながら学びを構成している。

力を合わせようとする

自然にまじりあう

- 制作中、作品がつながり出す
- ひびきあうように、並べる、重ねる、組み合わせる
- 表現行為をまねる、同調する

素直におつかり合う

- 表したいことを主張する
- つくりたいものをゆずらない
- 好き嫌いをはっきり言う
- 価値観の違いにおつかり合う

自他の違いを感じる

- 多様な価値観の違いを受けとめる
- 個々の役割を意識して表現する
- 折り合いをつけて調整しようとする
- ゆずりあって活動できる
- 互いのよさを伝え合い、助言し合う

自他の違いをより意識する

- 自ら目的に合わせ、役割を見出し行動する
- 互いのよさをいかして補い合う

**自他を比べる
自分の位置を探す**

- 相手の気持ちを推しはかる
- 自分の表現に自身が持てない
- イメージを共有しながらつくりあげようとする
- 自分が表れることに抵抗を持つ

他者との関わりの中で自分らしさと向き合う

- 自分らしさの表し方に葛藤する
- 表したいものが明確化する
- 自分の表したい感じを追求する
- 他者のよさに学ぼうとする
- 使う人の気持ちを考えようとする

自分と向き合う

共に高めようとする

より自分と向き合い他者を意識する

自分らしさを意識しながら

・染まる・塗る・絞る・編む・つなげる・組み立てる・重ねる・丸める・形づくる・集める・選ぶ・運ぶ・積む・まとめる・分ける・曲げる・彫る

遊戯性

街で 自然の中で 条件の中で
制限なしに 音の中で 他者とともに
身体表現で からだ全体で 等

切る・壊す・崩す・叩く・刻む・破る・ひっかく・穴をあける・通す
並べる・構成する・着る・伸ばす・ちぎる・引き裂く・のぞく・操る

考える・工夫する・想像する・構える・身体感覚(内部感覚)を働かせる
美しさ・ユニークさ・類い希な感じ・上品さ・優雅さ・尊さ・脆さ

性(色・形・材質)

人物 風景 鉱物 金属
大量のもの 極少のもの 繊細なもの
可塑性あるもの 抵抗感あるもの 等

美的感覚・美的判断力・愛おしさ・儂さ・季節感・混沌・乱れ・秩序
質感・調和・かわいらしさ・危うさ・重さ・軽さ・長・短・太・細

・右-左・加-減・表-裏・垂直-水平・構築-解体・陰-陽・永遠-瞬間・天-地・自-他・男-女・生-死・黒-白・凶-地・静-働・聖-俗

生活文化・技術・家庭科 学びの概要

- 目標** 社会との関わりを考えながら、主体的に生活をつくり、未来を担う自立した生活者を育む
- ・興味関心を持って主体的に生活に関わりようとする態度
 - ・生活の中から課題を見つけて取り組む意欲
 - ・主体的に生活をつくるための知識・知恵・技

学びを通して育てたい資質 生活者を支える力、の学び : ミニマムエッセンシャルライフスキルを身につけ、選ぶ目 (サステイナブル) を育てる		学びを通して育てたい資質 主な学び		
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活に関心を持ち、自分の力で取り組もうとする意欲 ・家族の一員としての自覚と役割分担の実行力 ・健康で元気に生きるための食生活に関する知識・知恵・技 ・自分の力で作るためのミニマムエッセンシャル・ライフスキル ・How to に止まらない文化的、科学的な見方や捉え方 ・仲間と協力して作業に取り組む姿勢 	○生活の自立レベル1 (導入: 生活文化で何を何故学ぶのかを考える) (食領域) (衣領域) (家族・住領域) ○食べることの意味 ○縫い方の基礎基本 ○自分をとりまくもの ・体と栄養 ・糸の付け ・生活時間調査 ・食事調査 ・手技の練習 ・家事分担 ・調理実習 (計る、切る、ゆでる) (手縫いで作品創り) ・布の性質 ← (消費者教育) グリーンコンシューマの視点 → ・生ゴミを減らす工夫 ・布の選び方 ・布の買い方		
		6年	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけた知識・知恵・技を生活に生かす態度 ・表示を読んで選ぶ目を育てようとする態度 ・これからの生活課題に目を向け関心を持つ態度 ・社会との関わりを考えながら選ぶ目を育てる態度 	○生活の自立レベル2 (発展: 生活者としての課題を考えて、学習した事を生活に生かす) (食領域) (衣領域) (家族・住領域) ○主体的に食べる ○ミシン縫いの基礎基本 ○ゴミを考える ・食品表示 ・型紙作り ・ゴミ調べ ・献立を考える ・作品製作活動 ・実験 ・米、味噌調べ ・調理実習 (炒める、煮る、炊く) ← (消費者教育) グリーンコンシューマの視点 → ・表示を読んで選ぶ・ゴミと水環境を考える・自給率を意識する
接続 6年 3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な食生活・住生活・衣生活・家族生活を維持する意欲を高め、知識・知恵・技 ・消費生活を経済面や環境問題から考え、知識・知恵・技を学ぶ ・生活を見通す力 ・コンピュータを使った情報処理能力を適切に行う能力 ・食に関する知識・知恵・技を身につけ、生活に活かす実践力 			○生活の自立レベル3 (発展: 生活者としての自立を意識する) (衣領域) (家族・住・消費者領域) (情報領域) ・健康と衣服 ・健康と家族と暮らし ・情報処理 ・衣環境を整える知識・知恵・技 ・住環境を整える知識・知恵・技 ・コンピュータの基本操作 ← (消費者教育) グリーンコンシューマの視点 → ・消費生活環境を整える知識・知恵・技
中1 接続 1年 前期	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習体験を通して、見通す力・段取り力・創造力・忍耐力 ・仲間と協力して作業に取り組む中で、(声を掛け合い、確認あい、思いやり、感謝しあう) コミュニケーション力 ・食全般の文化・科学・環境・健康について知識・理解・関心 ・ものづくりに関する基礎的な知識と技術を習得し、それらを適切に活用する能力 ・幼児に関する事柄を学び、保育・家族についての理解 	○生活の自立レベル4 (発展: 生活者としての食の自立を意識する) (食領域) (ものづくり) ・食と安全、衛生・食品と安全 ・製品の機能と構造・材料の資質と特徴・製図・組み立て ・栄養 ・調理の基礎基本 ・調理実習10回 (煮こむ、炊き込む、焼く、炒める、炒め蒸し) ・食文化、食とマナー ・食に関わる学、食と環境 ・食と健康と生活全般 ← (消費者教育) グリーンコンシューマの視点 → ・食材購入や調理法や片づけやゴミの始末など一連を考える		
中2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に必要な知識・知恵・技・幼児をとりまく家族・社会への興味関心 ・自分や社会に目を向け、よりよく生きるとはといった生活を見通す力。(男女共同参画) ・電気エネルギー利用に関する基礎的な知識・技術の習得と保守点検能力 	○生活の自立レベル5 (発展: 今までの学習を基に幼児・家族を考える) (保育・家族) (電気) ・自然な日常の姿の幼児、幼児の発達段階 ・電気エネルギーの変換と利用 ・幼児服の素材・デザインおもちゃ・遊び ・技術の習得と保守点検 ・幼児の食・安全な暮らし ・3人グループ編成で学習・製作をする。(道具、工具、の準備、後片づけ、清掃を含む) ・幼児をとりまく人的環境・家族・男女共同参画、幼児に関わる法律、施設 ・これからの生活 (消費者教育) グリーンコンシューマの視点 ・幼児をとりまく消費生活環境を整える知識・知恵・技		
中3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に必要な知識・知恵・技・幼児をとりまく家族・社会への興味関心 ・自分や社会に目を向け、よりよく生きるとはといった生活を見通す力。(男女共同参画) ・電気エネルギー利用に関する基礎的な知識・技術の習得と保守点検能力 	○生活の自立レベル5 (発展: 今までの学習を基に幼児・家族を考える) (保育・家族) (電気) ・自然な日常の姿の幼児、幼児の発達段階 ・電気エネルギーの変換と利用 ・幼児服の素材・デザインおもちゃ・遊び ・技術の習得と保守点検 ・幼児の食・安全な暮らし ・3人グループ編成で学習・製作をする。(道具、工具、の準備、後片づけ、清掃を含む) ・幼児をとりまく人的環境・家族・男女共同参画、幼児に関わる法律、施設 ・これからの生活 (消費者教育) グリーンコンシューマの視点 ・幼児をとりまく消費生活環境を整える知識・知恵・技		

- <接続期>生活レポートを有効に活用し教科指導内容と絡めて、接続を意識
- <適時性>発達段階にあわせ選ぶ目・スキルをスパイラルに積み上げていくことで適時性を意識
- <協働>調理実習・被服製作・テーマ追求学習など、生活文化・技術家庭の教科特性として協働を意識

協働して学ぶポイント

主体的に学ぶ (知る・行う・学ぶ)	他者と関わり合い学ぶ、支援 (見る・知る・考える・思いやる・行う・学ぶ)	新たに広がる課題・深まる学び (考え選び・見通し・実践する)
<p>★キーワード じっくり考える わかるまで確認する 落ち着いて行動する ★キーワード：協力、 加減、賢い消費者</p> <p>学習の手引きを書く 学習のめあて 学んだ知恵や技 学習のまとめ</p> <p>生活文化新聞作り</p> <p>家族の一員として 家事分担</p>	<p>おやつ会：班毎に相談し お菓子を買い、表示につい てまとめる</p> <p>調理実習：4名の固定メンバー で数多く行う</p> <p>調理実習：班実習 チェック表、班長点検</p> <p>針と糸を使って： 4名のファミリー（班）</p> <p>ミシンを使って： 2名のパディー</p> <p>生活レポートの発表を聞き、 質疑応答を行う</p> <p>家事実践後、体験などについて 話し合う</p> <p>環境双六、環境生活 レポート発表会</p> <p>光の明暗を使った 通信実験を行う</p> <p>調理実習を協働して、 数多く行う</p> <p>エコエコッキングレポート 食生活レポート発表会</p> <p>作品創り 道具、工具、の準備、 後片づけ、清掃を行う</p> <p>生活レポートの発表を聞き、質疑応答を行う場を設定する 実習後に班で話し合ったことを発表する 作品を見合う 学習のめあてやまとめの発表を聞き合う 仲間の新聞を読み合う お家のコメントを聞きあう場設定</p> <p>共有の道具・スペースを考え行うよう声かけ、教え合い学習を促す</p> <p>ゴミを減らす、生ゴミの水分を絞る 水や火を無駄にしないなど賢い消費者への意識を行動につなげる声かけをする</p>	<p>周りの人・こと ・ものにとり 自分とは？</p> <p>考え選ぶ権利、 よりよく生きていく 意味とは？</p> <p>社会との関わりを 考えながら選びとる 知識と技と知恵とは？</p> <p>学んだことを 生活に生かすとは？</p>
<p>接続を意識して生活レポ ートと実践カード実施</p> <p>直して着る、綺麗 に着る、を知る</p> <p>家事実践後、 課題を持つ</p> <p>情報基礎を知る 実験</p> <p>食・調理を学ぶ</p> <p>幼児を観察し・遊ん でみてレポートする</p> <p>幼児の衣食住を実験 実習等で知る。</p> <p>幼児をとりまく人的 環境・男女共同参画 を知る</p> <p>電気を知る</p> <p>電気の特性を生かした 作品創り</p>	<p>生活レポートの発表を聞き、 質疑応答を行う</p> <p>家事実践後、体験などについて 話し合う</p> <p>環境双六、環境生活 レポート発表会</p> <p>光の明暗を使った 通信実験を行う</p> <p>調理実習を協働して、 数多く行う</p> <p>エコエコッキングレポート 食生活レポート発表会</p> <p>作品創り 道具、工具、の準備、 後片づけ、清掃を行う</p> <p>ガイダンスでねらい・流れなどを 確認する。 家庭での実践を促すべく、保護者 向けにお便りを出し、実践の協力を 依頼する。 中学生として、生活の自立を意識 させるべくできる事を増やし、自己 肯定感を高めるよう場面を設定 する。 環境と生活を結びつけて考えられ るよう、技を伝達しあう。 生活に関わる仕事の多さに気付き その方法を選ぶ目を養う。 観察、実験、プログラミングは2 ～4人のグループ学習で協働を促 す。</p> <p>調理実習中、お互い言葉がけを行うよう声 かけする（確認を言葉に出して行う）</p> <p>安全と衛生を第一に注意を促す。 食品を選ぶ目、食生活を選ぶ姿 勢について意図的に学ぶ機会を設 ける。 3人グループ編成で学習・製作を 促す。（道具、工具、の準備、後 片づけ、清掃を含む） レポート回覧発表を設定する。</p>	<p>自分にとり、 家族・社会とは？</p> <p>家族・社会にとり 自分とは？</p> <p>考え選ぶ権利、より よい生き方 社会とは？</p> <p>考え選びとる 知識と技と知恵とは？</p> <p>“生活”から 何を発見し 何を学ぶのか？</p>

学びの概要 からだ・保健体育部会

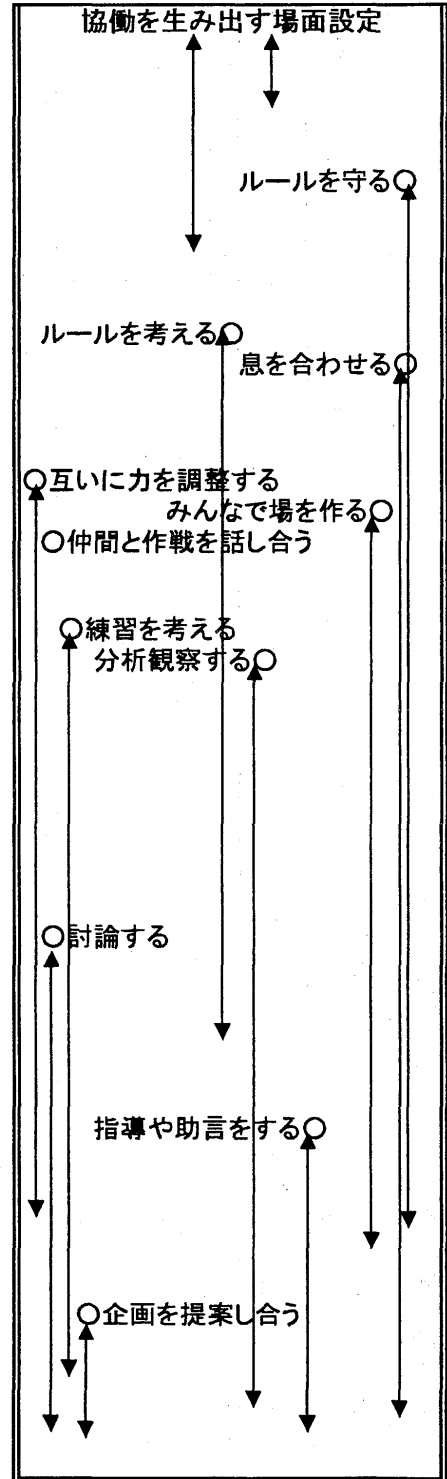
生涯にわたって進んで健康なからだを作り、運動を楽しもうとする態度・技能を育てる
 ・自分の体を向き合い、体力を高める ・多様な経験を通して、からだで表現する ・仲間と関

	感じる	考える	あらわす
小1 (2学期～)	長い時間走る 力一杯走る 基本の運動	感触を楽しむ 水の中で動く 水遊び	バランスをとる 器械・器具を使う 登り棒 鉄棒
小2	曲げる・伸ばす		いろいろな動きを楽しむ 変身して遊ぶ リズムに乗って楽しむ ごっこ遊び
小3	運動と体の変化 体のしくみと成り立ち 自分の体力	力を入れ方・抜き方 体のゆだね方	色々な動きを体験し、楽しむ できる動きの種類を増やす
小4		泳ぐ距離を伸ばす	身近なことを動きで表すことを楽しむ リズムに乗って身体を動かすことを楽しむ 表現運動
小5	個々の体の違い 健康な生活と環境 自分の体力と生活の改善	音に合わせて動く	思いや様子を動きで表現する 仲間と一緒に作ることを楽しむ 表現運動
小6		巧みに泳ぐ 長く泳ぐ 服を着たまま泳ぐ、泳ぐ	自分の力を高める
中1	保健	水と関わり様々な感覚を磨く 水の事故防止	自分のできる技を組み合わせて演技を作る 恥ずかしがらずに表す 思いきり体を使う ダンス
中2		水泳	仲間と効果的に技を構成する
中3	身体を鍛える方法を知る	自分の体力を知る	イメージにふさわしい動きを見つける 個人を生かしながらグループで作品を創作し表す ダンス 応援合戦
からだ・心を、育てる・守る・わかる			あらわす

典型的な教材を示す

わり合うことを通して、創造的に運動を楽しんだり、健康なからだをつくる

きたえる	はたらきかける	みんなと創る
カー杯走る 逃げる・追う ルールのある集団遊び	投げる・捕る ルールを守って遊ぶ	対人の遊び 友達とふれあうことを楽しむ
走跳ゲーム マラソン	ボール遊び ドッジボール	すもう
色々な走り方を楽しみ 身につける	ルールを工夫する	相手の動きを感じる 自分の力を出し切る
短距離走 マラソン	ハンドボール ポートボール ラインサッカー	レスリング
目標に向かって力を高める	リレー 簡単な技能を身につける	
速く走る工夫や練習をする 仲間と息を合わせて走る	作戦を立ててゲームする 自分たちでスポーツをつくる	力の調節をしながら体が ふれあう運動を楽しむ
100m走 マラソン	バasketボール やきゅう サッカー ビーチボールバレー	エキサイティングボール
ハードル	チームで協力して活動する ゲームの分析をする	
自分の力を試す、知る ペースを作る	バスケ パレー サッカー タッチフット ソフト	相手を尊重し、技能を高める 相手と関わりながら精いっぱい力を出し切る
目標に向かって技術の分析をして技能を高める 幅跳び 高跳び リレー	ペースランニング やゲーム大会の企画をする	柔道
きそう		



学びの概要 からだ・保健体育部会 保健分野 2007/2版

高木・山梨

生涯にわたって進んで健康なからだ(心と体)を作り、運動を楽しもうとする態度・技能を育てる
 ・自分のからだと向き合い、からだを知り育てる
 ・仲間と関わり合うことを通して、創造的に運動を楽しんだり、健康なからだをつくる

		協働		
		はたらきかける	みんなど創る	はたらきかけあい、みんなど創る
		あらかわす	であう	であいと共生
		考える	であう	であいと共生
小1・2	<p>感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の体や心の調子がわかる。 ②周りの人の体や心は個々に違っていることを感じる。 ・男の子と女の子の違い ・赤ちゃんが生まれる ・心のたんけん 	<p>あらかわす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の思いや考えを言葉でつたえる。 	<p>であう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新しい友達らとどであい、新しい活動に参加する。 	<p>はたらきかけあい、みんなど創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①朝しい仲間や自分とは違ひ考え方や生活をしてる学校の仲間とふれあい、意見を出し合うことにより深い認識や関わりあいができる。
小3・4	<p>考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人の体の仕組みについて興味をもち、体や心の変化に気づく。 ・きれいいになつたかな ・好き嫌ひがあるかな? ・体の名前調べ ・歯の話 ・元気がうんち出た? ・歯の話 	<p>あらかわす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の意見や考えをグループシートなどにまとめる。 	<p>であう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①仲間とのであいや活動を楽しく。 	<p>はたらきかけあい、みんなど創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の意見や考えをグループシートなどにまとめる。 ・たばこの煙についていやだね。 ・骨と運動 ・肺の話
小5・6	<p>感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生活の仕方が体調や心に影響していることを感じる。 ・大きくなるね、運つていいね ・いかりの心と向き合おう ・心の発達 ・ストレスとしょうずに付き合おう 	<p>あらかわす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の思いや考えを相手に分りやすい方法で表わすことができる。 	<p>であう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分から新しい仲間とのであいや活動を広げる。 	<p>はたらきかけあい、みんなど創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分から新しい仲間とのであいや活動を広げる。
中1	<p>感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体や心の健康な状態や不調を表現できる。他者の健康状態やけがが不調を感じ取ることができる。 ②危険な行動、危険な場所、状況を察知できる。 ③自他の健康や生命の大切さや、自他に対していとおしさや存在感を感じることができる。 ④誰でも健康で快適に過ごせる 	<p>あらかわす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の意見や考えを自分の意見や文章として発表することができる。 	<p>であう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①仲間や体験、新しい知識を通して、いろいろな自分になつていく。 ②体験や獲得した知識、情報を通して、より広い社会に出会い、そこに生きる自分や仲間の存在に気づく。 	<p>はたらきかけあい、みんなど創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①互いに他者の心身の健康や状況を気遣ひ、援助できる。 ②積極的に意見を出し合ひ、仲間の意見に刺激を受け合ひ、より深い理解や認識ができるよう関わり合ひができる。 ③他者の意見や行動のよい点を評価しあひ、問題点を互いに目を逸らさず立ち向かう関係を作り出す。
中2	<p>感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大予測あなた的身長はどこまでの伸びるか ・大人へのスタート ・怒りの心と向き合おう ・思春期の揺れる心 ・へこんだ心に元気しよう ・心と心で握手しよう ・心の軌跡-3年間の結果を振り返ってみよう 	<p>あらかわす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の意見や考えを自分の意見や文章として発表することができる。 	<p>であう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①仲間や体験、新しい知識を通して、いろいろな自分になつていく。 ②体験や獲得した知識、情報を通して、より広い社会に出会い、そこに生きる自分や仲間の存在に気づく。 	<p>はたらきかけあい、みんなど創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①互いに他者の心身の健康や状況を気遣ひ、援助できる。 ②積極的に意見を出し合ひ、仲間の意見に刺激を受け合ひ、より深い理解や認識ができるよう関わり合ひができる。 ③他者の意見や行動のよい点を評価しあひ、問題点を互いに目を逸らさず立ち向かう関係を作り出す。
中3	<p>感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機一髪(傷害の防止) ・交通事故とその防止 ・ばてない山登りの方法 ・エイズとの知恵くらべ ・環境と健康(水俣病に学ぶ旅) ・愛といのちと性(性意識避妊性感染症) ・喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用防止 	<p>あらかわす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の意見や考えを自分の意見や文章として発表することができる。 	<p>であう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①仲間や体験、新しい知識を通して、いろいろな自分になつていく。 ②体験や獲得した知識、情報を通して、より広い社会に出会い、そこに生きる自分や仲間の存在に気づく。 	<p>はたらきかけあい、みんなど創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①互いに他者の心身の健康や状況を気遣ひ、援助できる。 ②積極的に意見を出し合ひ、仲間の意見に刺激を受け合ひ、より深い理解や認識ができるよう関わり合ひができる。 ③他者の意見や行動のよい点を評価しあひ、問題点を互いに目を逸らさず立ち向かう関係を作り出す。